

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立峰山小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1	就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。	○「わかる・できる」授業づくりが充実し、学力の充実に向上と豊かな人間性のはぐくみが進展した。	○思考力・判断力・表現力などの能力を一層伸ばす指導を教育課程全体を通じて進める。
2	授業力の向上に全力を尽くす。	○特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズに応じ、保護者との合意形成を図りながら得意分野を積極的に伸ばす指導が児童の成長につながった。	○授業・特別活動・生徒指導を一体的に取り組み、自らの学習・生活を一層豊かにさせる指導を進める。
3	子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。	△学校不適応の未然防止を目指し、生徒指導を機能させて児童の主体的・協働的な授業を進める必要がある。	○一人一人の教育的ニーズに応じるとともに、どの児童も参加しやすい授業や行事を設計する。
4	地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。	△児童の主体的・協働的な授業を進める必要がある。	○地域社会の一員としての自覚を高める。
評価項目		具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○学習意欲を高めて思考力・判断力・表現力などの能力を一層伸ばす指導を教育課程全体をとおして進め、学習内容を確実に定着させる。	○峰山学園小中一貫教育の取組とリンクさせ、指導目標と学習のめあて、評価を事前に準備して、目標と指導と評価が一体となった授業を行う。 ○京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、小中9年間を見通した一貫性のある言語活動や学び方の指導を行う。 ○授業づくり、家庭学習、補習・補充の充実をセットにした「スリーアアップ作戦」を各学期に約3～4週間、年間で約3カ月間を設定し集中的に取り組む。 ○学習に関する児童アンケートをもとに検証し、指導方法の改善・開発を進める。	○峰山学園で重点としている学力・能力の向上のための授業を学校全体で実践し、主体的・対話的に学び合う学習スタイルが全ての学級で実践された。その結果、児童アンケートで「相談したり話し合ったりして学習がよく分かる」と回答した児童が97%となった。 ○児童アンケートでは「勉強の時間が来るのが楽しい」と感じる児童が、昨年度76%から本年度は91%に増加した。また、発表や態度等の他の学習に関する項目においても、肯定的な回答をした児童が90%を超えた。 ○家庭学習習慣形成の取組の結果、「宿題を忘れずにしている」と自己評価する児童が96%となった。 △主体的・対話的な学び方を定着させ、思考力・判断力・表現力等の向上を確かなものにする。
生徒指導	○生徒指導の3機能を生かした指導を学習指導や特別活動と一体化させて取り組み、学校不適応やいじめの未然防止にもつながる自己肯定感、自己存在感や共感的人間関係をはぐくむ。	○峰山学園「小・中学校で共通確認する指導の視点」を基盤として、生徒指導の3機能を授業の中で発揮させる。 ○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、共感的に理解したり自己決定をしたりする場を増やした指導を行う。 ○話し合いの活動を重視し、児童が互いに学び、理解し合い認め合う指導を進める。 ○学校不適応やいじめを起させないため、校内体制を充実し、早期発見・早期対応と情報共有に努める。	○峰山学園の重点に基づき、生徒指導の機能が発揮された授業のイメージを明確にして指導が展開できた。 ○一人一人の児童が目標を持ち、その実現を目指して話し合い折り合い合いをつけたたりする諸活動により、「話し合いで解決している」92%「人のために自分の力を使っている」95%と児童アンケートの数値が上昇した。 ○「先生はよいところを分かってくれる」98%「先生はできるまで教えてくれる」99%など、児童理解が深まった。それにより児童の自己肯定感を高め、問題事象や不登校(傾向)の減少・解消が進んだ。 △共感的人間関係をはぐくむ特別活動に一層改善する。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。	○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。 ○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。 ○新型コロナウイルスが相対的に高まっていることから、予防対策の基本である手洗いを生活習慣として定着させる。	○体力づくりの日常的諸活動に目標を持って取り組み、マラソン大会で全ての児童が完走するなど、目標達成に向けて努力する児童が増えた。 △早寝早起きは依然として課題であり、基本的な生活習慣の確立に向けて課題と取組を家庭と一層共有し、連携する必要がある。 △手洗いの習慣は定着したものの、インフルエンザに罹患した児童が増加した。
特別支援教育	○児童一人一人のニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するための指導・支援を行う。	○通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている児童に対して、見通しをもって学習や生活ができる環境を整え、特性に配慮した指導を進める。 ○保護者の願いやニーズを把握し、目標を共有した指導を充実するため、保護者と定期的な懇談の場をもち、保護者との合意形成を図りながら支援を進める。 ○特別支援学級の児童を中心に、得意分野を伸ばし、コミュニケーション能力の育成を図るための教育課程の編成・実施について研究と実践を進める。	○教育活動全般でタイムタイマーを使ったり予定表・時程表を掲示したりするなどの工夫を重ね、集団活動が苦手な児童を含めて全ての児童が行事や集会に見通しを持って参加できるようにした。 ○保護者と定期的な懇談し、青年期や就労等を見通した成長への願いを共有して支援を進めることができた。 ○特別支援学級において、児童の得意と関心に基づいた合意的な生活単元学習を開発し、一年間を通して実践したことで、個々の児童の成長につなげた。 △個々の児童の特性に配慮しつつ、一斉指導や学び合いを基本とした授業を充実するための研究実践を進める。
研修（資質向上の取組）	○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。	○指導教諭を中心とするベテラン教員の授業づくりや実践経験から学ぶ機会を増やす。 ○教材研究や授業研究の質を一層高めるため、学校外への公開授業等を積極的に活用する。 ○指導案を準備しない普段の授業から学び合う研修を行う。	○校内研修以外に、指導教諭等による校内での授業公開や自主研修等を複数回実施し、また、授業を学園内・市内・市外へ年間12回公開する中で、指導力向上の研修が質・量ともに高まり、授業の具体的な改善につながった。 △峰山学園小中一貫教育のⅠ期・Ⅱ期に対応した教育課程を理解し、9年間を見通した系統的で連続性のある指導が展開できるための研修を深める。
次年度に向けた改善の方向性	1 生徒指導の機能を生かし、思考力・判断力・表現力・協働性・人間性等の能力・資質をばぐくむ主体的・対話的な授業を一層追究する。 2 一人一人の児童の願いと目標を実現するための話し合い活動を置いた特別活動に改善し、共感的な人間関係をばぐくむ。 3 一斉指導や学び合いの授業を基本としつつ、個々の児童の特性等に応じた個別配慮、個別対応を工夫する。 4 峰山学園小中一貫教育のⅠ期・Ⅱ期に対応した教育課程を工夫し、9年間を見通した系統的で連続性のある指導を行う。		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。</p> <p>峰山学園小中一貫教育により本校の教育活動を充実させ、京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の研究を進めていく。</p>		<p>○ 学校再配置1年目、児童は落ち着いた状況で過ごし、充実した教育活動が推進できた。</p> <p>△ 自分の思いや考え表現する力を高める取組や家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組をさらに進める学力向上を図る必要がある。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>目指す子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども <p>「目指す子ども像」の育成のために定めた指導内容を組織的に推進する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 2 個に応じた指導体制を確立させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。府小研の研究協力校として、確かな学力の育成を目指す算数科の授業研究を進める。 2 ドリル、放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、学級での活動全体を通して、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える力を育成する授業と学習意欲を高める授業を行い、学力充実を図る。 	<p>○ 年度当初から学習規律、規範意識の向上を学校生活の基礎に位置付けて指導を行ってきた。児童も落ち着いた状況で学習、行事等に取り組むことができた。</p> <p>○ 学習内容の基礎基本の上に活用する力、学習意欲を高める授業研究を進めることができた。児童は、おおむね意欲的に学習することができた。</p> <p>△ 学習内容の基礎基本の定着を目指して家庭学習の習慣化を目指した。しかし、すべての児童が定着した状況まで高められなかった。また、自分の意見、思いを言葉として表現することも課題として残っている。</p>		
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるよう育てる。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。 3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他の人とのかかわりに関すること」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 	<p>○ 支援を必要と考えられる児童についての状況を全教員で共通理解を図ることができた。その上に、組織的に支援をすることができた。</p> <p>○ 生徒指導の基本に、規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。また、児童会は、絆をキーワードにして取組を行い、規範意識の向上、思いやりの心の育成に役割を果たした。</p> <p>△ いろいろな場面で、児童に言葉で表現することを大切にしながら指導を積み上げてきた。しかし、不十分さがあり、さらに自分の思いや意見などが言葉で表現できるようにする。</p>		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。</p>	<p>1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。</p> <p>2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。</p>	<p>○体育の授業、また、朝マラソン、朝縄跳びなどを期間を決めて行うことができた。児童も一生懸命に取り組むことができた。</p> <p>○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組み姿が見られた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信による積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、幼稚園・中学校等との取組により連携を進める。</p>	<p>1 学校だよりや学級通信、IP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方向の発信を意識することともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 無理のないP.T.A活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。また幼稚園(保育所)と中学校と一貫教育にかかわる研修、取組のねらいを明確にして積極的に実施する。</p>	<p>○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。</p> <p>○授業参観、行事参観を実施して本校の教育を広く紹介する場をもった。</p> <p>○保護者アンケートなどからおおむね本校の教育に対して理解を得ている。</p>
研修(資質向上)	<p>1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。</p> <p>2 個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。</p> <p>3 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。</p>	<p>1 京都府小学校教育研究会算数科教育研究協力校として、丹後教育局、京丹後市教育委員会の指導助言を受けながら、職員の指導力向上に向けた研修を行う。</p> <p>2 職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個に応じた指導法についての研修を行う。</p> <p>3 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。</p>	<p>○京都府小学校教育研究会算数科教育研究協力校として、算数科の指導のあり方について研究を進めることができた。</p> <p>○資質向上を目指して、峰山学園の研修会、本校の研修会を行うことができ、学力向上を目指した取組を行うことができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基本にして、教育を進めてきた。その結果、落ち着いた状況で教育を進めてことができた。このことは、平成30年度も大切にす。その上に、「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、教育を進める。また、学力向上については、家庭学習の内容、時間等を学年で系統立て、その定着、習慣化を図る。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

	学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】</p> <p>2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】</p> <p>3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】</p>	<p>○「学習意欲の向上」を意識して、「学び合い」「ユニバーサルデザイン」「試行錯誤」の3つの切り口から授業改善を試み、授業改善が進んだ。</p> <p>○生徒指導の3機能を生かした学級経営に努め、児童個々の課題と共に、教職員が指導課題を明らかにしながら取り組を進めることができた。</p> <p>△児童自らが正しく主体的に判断し行動できる力を培う。</p> <p>△校内事故の発生件数が多く、学校全体の危機管理意識の徹底を図る必要がある。</p> <p>△家庭学習習慣の定着を図っていく。</p>	<p style="text-align: center;">具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と指導と評価の一体化に基づく授業実践を蓄積する。 ・体験活動、言語活動を通して言葉の力、思考力・判断力・表現力を育む。 ・生徒指導の3機能を生かした学級経営・授業実践を推進する。 ・豊かな人間関係を構築する学級経営を基盤とし、学び合いを推進する。 ・学園の共通指導の視点を意識して日々の授業を推進し、児童の力を育む。 	<p>「今日が楽しく、明日が待たれる学校」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を推進し、確かな学力を育成する。 2 言葉の力、コミュニケーション能力を育成する。 3 学園評価・学校評価の結果に基づき教育実践の改善を図り、学校経営を充実させる。 4 丹波小学校との再配置に向けた取組を充実させることと地域・保護者・児童の信頼に応える。
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力実態や学習状況に基づく授業改善を進め、学習意欲が高まる魅力ある学習指導を行う。 ・自ら課題を見つけ主体的に課題を解決する力、豊かな表現力、豊かな人間関係を生み出す力を育む。 	<p style="text-align: center;">成 果 と 課 題 (自 己 評 価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○峰山学園「生徒指導の3機能を生かした学級経営」をどの学級でも目指し、共感的な人間関係のもとに学習を進めることができた。 ○先行的な取組として言語活動の充実が図られる学習活動をどの教科でも取り入れ授業改善に取り組み事が出来た。時に、「食」をテーマとして総合的な学習の時間や生活科、他教科との関連を図りながら探究活動や課題解決学習の中で表現力の育成を図った。 △目標と指導、評価の一体化に向けてさらに研究を進める必要がある。 	<p style="text-align: center;">成 果 と 課 題 (自 己 評 価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○規範意識の醸成、当たり前のことが当たり前にできる児童を目指し、企画委員会(生指担当、特活担当、特支担当、教相担当等)で全般的な取組を検討・提案し職員の手を動かすことにより児童の行動に繋がるようにしてきた。 ○「スマイル見つけ」で児童の行動面を肯定的評価していくことで意識変革を行ってきた。 ○不登校傾向児童の保護者、他機関と連携し解消に向け組織的に対応を行い、改善に向けた事実もある。 △該当児童担任の負担感を軽減し更に組織的対応を図る
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤と</p>			

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成し、体育・運動能力の充実を図る。 家庭との連携を図り、基本的な生活習慣を確立する。 「生きる力」に繋がる食育指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝マラソン、朝縄跳び、遊び等を通して基礎体力力の向上を図る。 心と体と命の教育、薬物乱用防止教育に取り組む。 生きる力に繋がる食育・保健指導に取り組む。 「生き生き頑張り週間」を学期毎に設定し、基本的な生活習慣の確立に努める。 登下校の安全を守るため地域・PTAと連携した取組を進める。 児童の危険回避能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝マラソン、朝縄跳び等を通して、体力作りにも励む児童が増え、体力・気力の向上が見られた。 生きる力に繋がる「食育」指導を全校的にを行い、児童や家庭の食に対する意識を高めることができた。給食時間に食事中のマナーを指導し改善が図られた。 防犯教室、薬物乱用教室、避難訓練等を計画に則り実施でき、安全に対する意識を高めることができた。 前半は怪我が多く発生した。安全に対する児童の行動意識を高める必要がある。 △積雪時の通学路に関わっての安全対策を進める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン化を意識した教育活動を展開し、誰もが学びやすい環境を整える。 個別支援が必要な児童の家庭との連携を図り、積極的な支援を行う。 障害についての理解を深め、好ましい人間関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害等を含む特別な支援を必要とする児童に対する支援の在り方を組織的に探究し、校内体制の充実を図る。 ユニバーサルデザインの視点を授業や生活に取り入れ、学びやすい環境を整える。 個別の支援計画、支援計画等による個に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善に努める。 様々な障害についての理解教育を進め、児童が自他の良さを認め合い尊重し合える態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の配慮が必要な児童に対して、家庭との連携のもとに対応や手立てを考え、支援を行うことで児童の安定に繋がった。面談を定期的に行い、保護者をサポートすることで安心感に繋げることができた。 専門的な側面から外部講師を招聘して研修を行い、職員への理解に対する理解を深めることができた。児童に対しても理解教育を丁寧に行い、友好な関係が築けている。 △発達障害等に対する保護者の理解が十分に図れないケースもあり、引き続き家庭との更なる連携の必要がある。
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」について探究していく。 学園で作成する総括テラスの実践をもとに「目標と指導と評価の一体化」を意識した授業を追求する。 市の給食研究大会の実践発表校として生きる力に繋がる「食育」の研究を組織的に進める。 教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上、配慮児童への支援の充実を目指した研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進部の提起を受け、グループ毎に研究を深めた。単元構想力、授業改善に向けた指導の在り方や思考ツールの等について深く学び合う事ができた。若手教員・講師の授業の組み立てや授業構想に役立てることができた。 ○重点教科の研究に伴い、探究活動、課題解決学習を通して主体的な児童の学びがどの学年でも繰り広げられた。 △学力の定着・向上に向けた指導法の工夫・改善を図る。 △教育公務員として更なる研鑽に努める。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再配置により丹波小学校児童と新生「しんざん小学校」を築いていくことになる。学校として、新山・丹波両校の児童・保護者・地域の信頼に応えるべく教育活動が展開できるよう、小中一貫教育の理念に基づき、児童に未来を展望できる「生きる力」を育む教育活動を展開していく。 ・学校としての教育理念を明示し、教職員が「チームしんざん」として一つにまとまり教育活動を展開していく。そのための和・輪を大事にする。 ・新学習指導要領の主旨に沿った学習活動を展開し、指導を工夫改善し、児童に確かな学力を定着させる。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹波小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】	○算数科を中心に研究授業等を通して、言語活動の重視や生徒指導の三機能を生かした授業改善が推進できた。児童の学習意欲が高まり、基礎・基本の定着も図られてきた。	○様々な集団活動や話し合い活動を通して、自分達で考え創造し表現する力を高め、自己肯定感も高まってきた。	1 確かな学力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進するため、共通した視点を踏まえ、小学校から中学校までの一貫した実践を進める。目標と指導と評価の一体化を進める。生徒指導の三機能を生かした授業実践を進める。	
2	「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】	○保護者や地域と連携した取組を進めることができた。	○児童の自主性・主体性を高め、更なる学力向上、基本的な生活習慣の確立をめざす。	2 コミュニケーション能力の育成 生徒指導の三機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫した積極的な生徒指導を進める。	
3	保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】			3 「言葉の力を育てる」実践の推進 4 評価を見通した取組の充実	
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策			
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					
教育課程 学習指導	1 児童にとって「わかる」「できる」授業、身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 2 個に応じた指導や家庭学習・読書の習慣化を図り、基礎・基本の力を定着させる。 3 多様な人と関わる学習活動を設定し、児童の学びを深める。	<p>1 A層・C層への具体的手立てを考え、全員の児童が分かる授業づくりをするとともに、目標と指導と評価の一体化、生徒指導の三機能を生かした授業、言語活動を重視し、主体的・協働的な学習活動について研究を行う。</p> <p>2 ドリルタイム・言語タイム・放課後補習・4年ふりスタ等による未定着内容の回復や個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。また読書活動の充実や家庭と連携した家庭学習頑張り週間等の取組を年間通じて行う。</p> <p>3 外部人材の活用や他校との交流、校外学習・体験活動等、様々な人と意欲的に学習できる場の設定を行う。</p>			
生徒指導	1 達成感を味わう経験や互いの良さを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心と態度を育成し、いじめを起ささない指導を進める。	<p>1 目標を持たせ、達成させさせる指導を行う。また授業、学級活動、異年齢集団活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合い、伝え合う場を設定する。</p> <p>2 「思いやり・親切」にかかわることについて、道徳の時間を中心に全教育活動を通して日常的に指導するとともに、人権月間の取組等、計画的に指導を行う。またいじめ調査や日常的に個々の児童の状況を丁寧に把握し、早期に具体的、組織的な対応を行う。</p>			
		<p>○研究授業や理論研で目指す授業のイメージを共有し、授業改善が進んだ。児童アンケートではほぼ全員が「授業がわかる」と答え、学力調査・CRT等の結果では国語・算数とも全学年で平均を大きく上回った。</p> <p>○年間通じた様々な取組と年3回の学力充実期間の強化により、家庭学習や自主勉強の質・量の向上、読書の習慣化が図られ、基礎学力の定着が見られた。</p> <p>○丹波地域の学習等で多様な人材活用や体験、新山小との合同授業等に取り組み始めた。「学習に意欲的に取り組んだ」という児童が昨年度以上に大幅に増加した。</p> <p>△個への指導や表現力の育成をより充実させる。</p> <p>△自ら更なる高みを目指して学習に向かう力を伸ばす。</p> <p>○課題に対し、月目標の設定と具体化、評価を行い、全校で成果を確かめつつ改善できた。また話し合い活動や互いの良さを認め合う場を設定することで、良好な人間関係や自己肯定感も高まってきた。</p> <p>○道徳、人権学習、日々の具体的場面で、思いやりやいじめを許さない指導を行い、児童アンケートでは全児童が「いじめはどんな理由でもいけない」「友達と仲良くしていい」と答え、落ち着いた学校生活が過ごせた。</p> <p>△困ったことを自分達で話し合っ解決できる力や自己肯定感を更に高めていく必要がある。</p>			

健康（体 育）・安全	1 全校的な体力づくりの取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立により、強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦していきこうとする態度を育成する。	1 全校での朝の朝の体力作りや体育的行事と体育の授業を連動させ、運動への意欲を高め、体力向上を図る。またPTAと連携した元気貯金の取組で、基本的な生活習慣の確立を目指す。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にする。粘り強く挑戦する態度を継続させるための手立てや指導を教科・道徳の時間や学級活動、学校行事を中心に計画的に行う。	○朝マラソンや縄跳び、陸上関係の行事に向け、目標を立て、毎日全校で取り組み、継続することで体力の向上や技能面も伸びた。アンケート結果では、運動への意欲も高まっている。 ○年3回の元気貯金（基本的な生活習慣の取組）は、家庭の協力で、昨年よりもよい結果となった。 △取組期間以外の継続と、毎回出来ていない児童や家庭への啓発が課題である。 ○明確な目標を持たせ、やり切らせる指導で、児童アンケートでは「粘り強く」「挑戦する」とともに全校児童ができていると回答している。どんな場面でもやり切る態度を更に身に付けさせていきたい。
特別支 援 教 育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 障害児者理解教育を進める。	1 教育支援部会を中心に、支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にしながら、組織的に指導を進める。また、年間を通じた家庭との連携も重視して進める。 2 年間通じて、理解教育の場を設定し、保護者への啓発も行う。	○毎月の教育支援部会で、気になる児童の実態把握と対応を組織的に検討し、関係諸機関とも連携し具体的な指導を進めることができた。（巡回相談・SC等） ○面談や連絡を密に、保護者の協力を得て指導できた。 △就学指導は丁寧に進めたが、難しさがあつた。 ○4年の総合の学習や全校で障害のある人の講演会を聞く等、障害者理解教育を進めた。保護者への啓発を含め、更に理解教育を充実させることが必要である。
開 か れ た 学 校 づ く り	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との連携を強化する。	1 たよりやHPで常時、児童の肯定的な評価、保護者等からの意見の反映等、双方向を意識した誌面作りを行う。また閉校に向けた保護者や地域住民の学校参観や行事の参加を促進する。 2 PTAと連携し、「読書」「早寝」「褒めて育てる家庭教育」の取組を進める。また安全パトロール隊や学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した授業等、地域一体となった教育活動を進める。	○たよりや通信、HP等で情報発信に努め、地域の方の学校行事等への参加の場も例年より多く設定し、運動会やたにわフェスティバル等で参加していただいた。 △保護者からの意見に対して、丁寧な返し方や双方向の紙面づくりは十分に出来なかつた。 ○親子読書、元気貯金や家庭学習、安全の見守り等、PTAと連携した取組が年を通して実施できた。 ○閉校に向けた取組や行事、閉校記念誌作成や地域イベント、PTA事業等、保護者・地域連携協力の下に実施でき、児童に地域への愛着や誇りを持たせることができた。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	しんざん小学校では、（※来年度閉校のため） ・丹波小学校・新山小学校、それぞれの伝統や良さを引き継ぎながら、教職員、児童、保護者、地域の人と共に、将来を見据え、これからの児童に必要な新しい教育を展開し、新たな文化・伝統を創り出していく。 ・児童が新しい学校で学ぶ喜びや意欲を持ち、大勢の新たな友達の中で、深い学びと豊かな心の育成を図る教育課程、教育環境を整える。		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	具体的方策	重点目標
<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動を全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。</p> <p>(目指す子ども像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲を持って自ら学ぶ子ども ・ 思いやりのある子ども ・ 進んで心と体を鍛える子ども 	<p>○生徒指導上の大きな問題や不登校に関わる事例はなく、児童は一定安定した学校生活を送ることができた。</p> <p>○高学年では主体的に考え行動する力が育てられ、充実した児童会活動を展開することができた。</p> <p>△支援を要する児童が多く、コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある。</p> <p>△学級経営の不十分さから課題の見られた学級では、学力課題が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための組織的・計画的取組が必要である。</p> <p>△教職員の指導力量の向上</p>	<p style="text-align: center;">具 体 的 方 策</p> <p>(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」「授業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導の3機能を意識した授業づくりを進めることで、児童の自己肯定感を高める。 ○ 外部講師、関係諸機関との連携を図り研修を工夫すること、児童も教師も楽しいと感じる授業づくりを進め、学ぶ意欲を育てる。 ○ 幼小連携・小中連携・小中連携を進め、10年間を見通した指導を工夫する。 <p>(2) 言葉の力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アクティブラーニングを意識し、主体的な活動の場、対話的な学習場面が保障された授業づくりや考え伝え合える授業づくりを進めることで言葉の力を育てる。 <p>(3) 目標と指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実態に応じた目標設定と評価まで見通した放課後補習、学園統一の家庭学習の手引きを活用した家庭学習習慣の確立により、基礎学力の定着・向上を図る。 ○ 朝読書、読み聞かせ等による読書活動の充実 	<p>○ 確かな学力の育成</p> <p>(1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業の推進</p> <p>(2) 言葉の力の育成</p> <p>(3) 目標と指導と評価の一体化の推進</p>
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p style="text-align: center;">本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>○ 学力向上シスデム開発校として、ユニバーサルデザイン視点を活かし、児童の主体的・対話的で深い学びを充実させる学習活動を推進する。</p> <p>＜確かな学力・コミュニケーション能力の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の三つの機能を活かした学級経営(居心地の良い学級づくり)の推進・望ましい人間関係の育成 ・ 工夫ある研修による、授業力・指導力の向上 <p>＜幼小・小小・小中連携、保護者・地域連携の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究を通じた小中一貫教育の充実 ・ 家庭や地域と協働する信頼される学校づくりの推進 	<p style="text-align: center;">成果と課題 (自己評価)</p> <p>○ △生徒指導の3機能を授業の中で意識した指導を進めることを全体で確認し取り組んできたが、児童の自己肯定感の向上には課題が残っている。</p> <p>○ 外部講師を招き研究主題に基づいた研修会を実施したりし、全教員で外部の研修会や研究発表会に参加したりして学級づくりや授業づくりについて研鑽を深め、教員の指導力量の向上に努めた。</p> <p>○ 峰山学園の授業研究会で学んだり、高学年の事前研究会に中学校教員にも参加してもらい指導案を検討したりする中で、9年間を意識した指導について考えられた。</p> <p>○ 朝読書は静かに取り組むことができる。</p> <p>△ トークタイムの設定など言葉の力の育成をめざし取り組みができ、なかなか発表力の向上には至っていない。</p> <p>△ 学力課題に基づいた達成目標を設定して漢字チャレンジ・計算チャレンジや家庭学習がらばり週間を実施し取り組みできたが、意欲的に学ぶ児童も多くいるものの、課題に向かえない児童もあり、その児童への対応については今後の検討課題である。</p> <p>△ 学習ポランティアの支援を受けながら放課後補習等にも取り組みだが、学力の2極化は改善されず、基礎学力の確実な定着までには至らなかった児童がいる。</p>	

生徒指導	<p>(1) いじめの根絶を目指して安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり</p> <p>(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組</p>	<p>(1) いじめなく居心地のよい学級づくり・学校づくり</p> <p>○機能する校内体制を確立し、いじめ・問題事象・不登校の未然防止、早期対応・早期解決に努める。</p> <p>○学級経営研修等、研修の工夫により指導力向上を図る。</p> <p>○豊かな体験活動や読書活動を生かした道徳的実践力を育成する。</p> <p>○児童と教職員、児童相互の協働的活動を通し、温かい人間関係の構築を図る。</p> <p>(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組</p> <p>○安心して自己表現ができる学級・学校づくりの推進</p>	<p>○重点研究に関わり、学級づくりについての研修を深める中、安定した学級づくりができた。学校が楽しいと答えた児童が96%、全校登校できた日も100日を超えた。</p> <p>○道徳教育の研修や人権学習の授業公開を実施し、児童の道徳的実践力の育成に努めた。</p> <p>○充実した異年齢活動ができ、児童が生き生きと活動する様子がみられ、児童同士、教員と児童、教員同士の温かい雰囲気は学校の中にもみられる。しかし、自己肯定感の低い児童は多い。</p> <p>○教育相談活動充実により、不登校の未然防止はできた。</p>
健康（体育）・安全	<p>(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成</p> <p>(2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備</p>	<p>(1) たくましく生きる力の育成</p> <p>○目標を明確に継続的な体力づくりの取組の推進</p> <p>○小中連携加配との連携による運動能力の向上</p> <p>○生命や体、健康に関する知識と実践的態度の育成</p> <p>(2) 安心・安全な学校づくり</p> <p>○教職員の危機管理意識の向上を図る研修の充実</p> <p>○安全点検や避難訓練の実施と地域と連携した安全体制・防犯体制の確立</p>	<p>○心・体・命の学習を全学年計画的に実施し、保護者に公開し理解を得ることができた。</p> <p>○担任の計画的な指導や小中連携加配の支援により、駅伝大会でよい結果を残すことができた。</p> <p>○朝マラソン・縄跳びを実施し体力向上に努めた。児童は意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○避難訓練は計画通り実施することができた。</p> <p>△通学路、安全・防犯体制の一層の充実が必要である。</p>
特別支援教育	<p>(1) 児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進</p>	<p>(1) 日々の丁寧な相談活動による児童一人一人に応じたアセスメント、個別の指導計画作成・活用の推進</p> <p>(2) 子どもの教育的ニーズに応じた校内委員会を組織し、指導の充実を図る。</p> <p>(3) 幼小連携・小中連携の充実とユニバーサルデザインを意識して多様な学習形態を導入した授業づくりを進める。</p> <p>(4) 支援を要する児童理解、指導・支援の在り方について研修会を実施し、特別支援教育を充実する。</p>	<p>○担任、特別支援コーディネーター、保護者が児童の状況を共有し指導の進め方について共通理解を図ることで、個別の指導計画に基づいた指導が進められた。</p> <p>○小中連携、保幼小の連携を図ることで10年間を見通した個の特性に応じた支援について考えられた。</p> <p>△保護者理解の進まない児童について、今後も丁寧に対応すること、児童の状況に応じた指導を進めていきたい。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>(1) 学力向上システム開発校としての研修の充実</p>	<p>(1) 研究課題を明確にし、協働して学ぶ意欲を高める。</p> <p>(2) 研究体制を整え、学級づくり・授業研究会の充実を図る。</p> <p>(3) 講師招聘等、研修を工夫し教職員の指導力向上を目指す。</p>	<p>○それぞれが、研究仮説に基づき課題を設定した授業研究を行う等、意欲的に研究活動を進めることができた。</p> <p>○青山教授の指導を受けながら、ユニバーサルデザインに視点をのいた学級づくり、授業づくりを進められた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎本年度、学力向上システム開発校として研究実践してきた中で明確になった取組課題を全教員で共通確認し、学力向上の取組をシステムとしてどの教科・領域でも活かすことができる内容となるように研究を充実させ、他校に広められるものを創りたい。</p> <p>◎小中連携や幼小連携、小中連携など峰山学園小中一貫教育を充実すること、授業実践力を付け児童の学力向上を図ることで、児童がスムーズに中学校に進学し充実した学校生活を送ることができるよう努力する。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	重点目標	具体的な方策	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切に、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進 5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実	○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。 ○児童の学力実態や学習状況の確に把握し、基礎的・基本的事項の定着を図るべき授業改善を推進する。 ○算数科を重点教科とし、小中連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。 ○小中一貫関係力リキュラムを生かした学習指導を推進する。 ○新学習指導要領実施に向けた研修・準備を進める。	前年度の成果と課題 ○組織的授業研究による授業改善、全校体制による早期回復指導、家庭連携の充実により基礎学力が向上してきた。 ○学校運営システムの充実推進により、組織的に学校課題(問題行動事象・不登校)改善に向けた取組の充実が図られた。 △課題特性に応じ、個別な児童支援、子育て支援の強化を図る。 △大宮学園経営の充実を図るため、校内組織推進の強化を図る。	○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 ○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成 ○授業研究の充実、授業改善による基礎学力の向上 ○教科指導力・生徒指導力・対応力・連携力の向上 ○突発的事象に対する、組織的支援力・対応力の向上 ○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実 ○大宮学園の組織運営・連携教育活動の充実
教育課程 学習指導 生徒指導	○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。 ○児童の学力実態や学習状況の確に把握し、基礎的・基本的事項の定着を図るべき授業改善を推進する。 ○算数科を重点教科とし、小中連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。 ○小中一貫関係力リキュラムを生かした学習指導を推進する。 ○新学習指導要領実施に向けた研修・準備を進める。	具 体 的 方 策 ・全教育活動で思考力・言語力(書く、読む、表現)の向上を図る。 ・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上をめざした授業改善を図る。 ・算数科を重点研究教科とし、指導法改善を進め、算数科学力課題の改善を図る。 ・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。 ・形成評価、単元末評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。 ・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通して家庭学習習慣の定着を図る。 ・大宮学園合同研修により、自己肯定感を高め、基礎学力の向上を実現するための授業づくりを充実させる。 ・計画的に新学習指導要領研究・実施準備を進める。	成果と課題(自己評価) ○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。 ○各基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導を取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○算数科重点研究により、算数科を中心とした授業改善の取組の充実を図ることができた。 ○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導が充実でき、基礎学力の向上を図ることができた。 ○全学年放課後回復指導の充実を図ることができた。 ○年間を通じた学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣、家庭学習の充実を図ることができた。 ○英語科、道徳を中心に、新学習指導要領実施に向けた研修の充実を図ることができた。 △大宮学園授業研究により、「ことばの力」を高めるための授業づくりを充実させる。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	○「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向けた日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。 ○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。	生徒指導部・教育相談部、教育相談部会のセンター機能強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。 ・支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方策を検討し、組織的支援の充実を図る。 ・道徳の時間、全ての教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。 ・思いやる心と豊かな人間関係を育むため、異年齢活動、自然体験・社会体験活動の充実を図る。 ・課題解決力を育成するため児童の自己決定場面の充実を図る。 ・学級経営力の向上を図る。(学習集団の育成・自治的活動充実) ・家庭教育支援、心の教育の充実、下校後の問題行動事象解消に向け、家庭支援・地域との連携の強化を図る。 ・大宮学園引き継ぎシートの活用による保幼小中の連携強化、大宮学園合同研修を充実させ、不登校の解消を図る。	○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。 ○道徳、人権学習の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。 ○年間を通して多様な異年齢活動・体験活動を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○全教育活動を通して自己決定場面を工夫・充実させ、「自ら考え、課題を解決していく力」の育成を図ることができた。 ○学級経営評価を基にした実践研修により学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○大宮学園引き継ぎシートの活用、学園教育支援部会、校内支援会議の充実により、個別な不登校解消に向けた取り組みの充実を図ることができた。 △支援会議・家庭教育支援を充実させ、不登校を解消させる。

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」	○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。	○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。	○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。	○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。	○人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級、学校づくりを進めることができた。 △不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する指導力、対応力が課題である。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)		
教育課程 学習指導	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の実 (2) 基礎・基本の定着と活用する力の育成 (3) 家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	(1) I期、II期、III期の学習への円滑な接続 ・小スタートカリキュラム (短期から長期へ) の実施 ・小四振り返りスタディの充実 ・モデルカリキュラムの活用 ・「ことばの力」カリキュラムの検証 (2) 児童が「わかる」「できる」指導の工夫・改善 ・「小学校で身に付けた力」の具体的取組実践 ・個に応じたきめ細かな指導 (TT、少人数指導等) ・目標と指導の一体化を重視した授業改善 (3) 大宮学園「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した家庭学習習慣の強化 ・家庭学習がらばり週間の実施 ・発達段階に応じた自主学習指導・読書活動の深化	○保幼小接続プランを実態に合わせて年長・入学・1年の長期プランとして作成、実践を進めることができた。 ○4年生で習熟度別ふりかえりスタディを実施し、学力の定着を図ることができた。 ○小連携加配教員と担任による TT 指導・少人数指導で算数科指導の充実が図れた。 ○△学校体制で学力充実の取組を推進し、成果が見られるが、高学年になるにつれ学力差が見られ、一層個に応じた指導が必要である。 ○読書活動の推進を進めたことで、読書する児童が増えた。 △学年に応じた自主学習指導はやや不十分であり、次年度の取組課題としたい。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) ＜大宮学園 目指す子ども像＞ (1)意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2)自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3)心身を鍛え、活動的な子どもの育成	
生徒指導	(1)正しく判断し、行動できる力、規範意識の醸成 (2)人権意識の育成といじめの未然防止 (3)特別活動の充実による自主的・実践的な態度の育成	(1) 小中で共通の視点を盛り込んだ「学校のきまり」「5・6年生の心得」指導 ・学校体制による組織的な生徒指導 ・情報機器使用のルール、マナーの指導 ・非行防止教室 (3年生以上) (2)自他を大切にすることを育成するための人権の取組 ・改訂「人権教育カリキュラム」の検証 ・いじめ対策委員会によるいじめ防止、未然防止の取組 (3)児童実態に応じた月目標の設定と PDCA サイクルの取組実践で児童の自治能力と自己肯定感を高める。	○組織的な生徒指導を行うことで、集団生活におけるルール・マナーを守って学校生活を送る児童が育っている。 △情報機器使用のルール、マナーの指導は、年間見通して計画的に行う必要がある。 ○人権月間 (6月) 人権月間 (12月) と取り組み、年間を通して指導をしているので人権意識は高い。 ○月目標に向けた学年取組、振り返りを継続して行うことで、児童の規範意識や自治能力は高まっている。		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体 育）・安全	(1)体力・運動能力の向上 (2)健康安全教育の充実 (3)食育・給食指導の充実	(1)体力テストの結果を踏まえた授業改善 (2) 自他の命を大切にし、ルールを守り、自分の身を守る 安全教育、命の教育 (3) 平成30年度市学校給食研究会研究協力校として、 これまでの取組成果を整理し、課題改善に向けた取組 の推進（栄養教諭との連携、環境整備、学活指導等）	○マラソンやなわとびの年間取組で児童の基礎体力が向 上した。 ○交通安全や日常的な登校指導、安全教育で児童の安全 に関する意識の高まりが見られる。 △栄養教諭と連携し、給食指導・食育指導の改善を進め たが、一層計画的な指導を進めていく必要がある。
研修（資質 向上の取 組）	(1)児童の思考力・表現力・活 用力を高める校内研修の実施 (2)次期学習指導要領の理論 研修と準備に向けた校内研修 の実施	(1) 指導と評価の一体化を目指した授業改善を重点研究国 語科を中心に行う。 (2) 道徳の教科化、外国語活動の先行実施に向けた校内研 修を実施し、指導力の向上を図る。	○全学年国語科の研究授業を行い、思考力・表現力を高 める授業づくりを進め、成果が見られた。 ○外国語活動研修を計画的に実施し、外国語科実施に向 けた準備が進むとともに E-ROOM 等環境整備がで きた。 ○道徳教科化に向け、大宮学園で共通重点項目の決定（思 いやり）や全体計画の作成等、準備が進んでいる。 △外国語科・道徳科の指導力向上は課題である。
特別支 援 教育	(1)ユニバーサルデザインの 視点で学校教育の改善を図 る。 (3)障害のある児童・保護者 のニーズに応じ、個性・ 能力の伸長がでる特別 支援教育を進める。	(1) 通常学級における特別支援を要する児童に対しての適 切な支援を進める。教育のユニバーサルデザイン化を 意識した教室経営、教科指導を進める。 (2) 適切な児童の見立てや個別の指導計画が作成できよ う学校体制で取組を進めるとともに、外部連携した事 例研究や研修を行う。	○外部連携を積極的に行い、支援のあり方を組織的に検 討し、特別支援に対する理解が進んだ。 ○巡回通級指導教室との連携で配慮児童への指導支援が 進んだ。 △児童・保護者のニーズに応じ、個性・能力の伸長がで きる特別支援教育の推進には、課題がある。
次年度に向け た改善の方向 性	(1)引き続き人權教育を基盤にし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級・学校づくりを推進する。 (2) 小中一貫教育の視点を大切に児童の思考力・表現力・活用力を高める授業づくり・授業改善を進める。 (3) 新学習指導要領実施に向けた研修・指導力向上のための取組を進める。（新指の趣旨に沿った実践、道徳科・外国語科、本格実施に向けた準備）		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立網野北小学校)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</p> <p>2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。</p> <p>3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。</p> <p>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">前年度の成果と課題</p> <p>○ 全校的に年間通して、落ち着いた授業ができ、授業充実を図ることができた。</p> <p>○ 社会科・国語科の授業研究を通して、自分の考えを表現することができている児童が85%と増えている。</p> <p>△ 活用する力を身に付けさせ、A層をつくる取組、「わかる授業」「できる授業」を通して国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」</p> <p>1 自分の考えを表現することができる。</p> <p>2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。</p> <p>3 いろいろなことに挑戦することができる。</p>
評価項目	重点目標	成果と課題 (自己評価)
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。</p> <p>2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。</p> <p>4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。</p>	<p>○児童アンケートで「学校の授業は分かりやすいか」の問いに92%が分かること回答している。また、保護者アンケートでも85%の家庭で「わかる」「できる」授業を進めていると理解を得ている。</p> <p>○児童アンケートで「算数の力がついていますか」の問いに92%が回答していると回答し、「ほとんどできない」も全校で0人となっている。</p> <p>○児童アンケートで「自分なりの考えを発表したり書いたりしていますか」の問いに88%が回答していると回答している。</p> <p>○漢字検定52名算数検定57名が挑戦する。昨年度より約10名増えている。</p> <p>○山陰海岸ジオパーク研究作品コンテスト・「ここが大好き・ふるさと丹後」作文コンクールで入賞者を出すことができた。</p> <p>△今後も授業研究を通して思考力・判断力を高め、A層をつくる取組を進めていき、学力の向上を図っていきたい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。</p> <p>2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。</p>	<p>○生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行うことで、運動会・異年齢児童会行事・大縄大会・人権月間等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。また、「思いやり」「親切」について計画的に指導でき、相手の立場を考えて行動することもできるようになった。</p> <p>○児童アンケートで「友達と仲よくする」の問いに95%が仲よくしていると回答している。保護者アンケートでも87%の家庭が、よさを認め合い伝え合っているとの回答が得られた。</p> <p>△道徳の教科化の趣旨を踏まえて「考え、議論する道徳」を目指しながら「思いやり」「親切」について系統的に指導していく。</p>
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		

健康（体 育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 運動能力向上指定校として（府教育委員会指定）体力向上の取組を進める。 3 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1－（2）についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。	○体力・運動能力向上指定校として、全校で「まゆまる体操」に取り組み、体力・運動能力向上（立ち幅跳び等）を図ることができた。 ○体力づくりに取り組み、駅伝大会では、優勝の結果を得ることができた。 △児童アンケートで「『はやね』をしていますか」の問いに77％が返している。昨年度より数値が下がってきている。今後もPTAと連携し、生活習慣が身に付いていない児童に対して取組を進めていきたい。
特別支援 教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。 2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的配慮を明確にする。個別の指導計画・個別の教育支援計画を日々活用し、指導方法の工夫改善を図る。	○特別支援校内委員会を定期的に開催し、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討し、ディサービス訪問等あすなろ・つばめ学級合同の取組も行うことができた。 ○年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成し、見直すことができた。
開かれた 学校づく り	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○6月に学校公開日を設定し、保護者・地域住民に研究内容等発表し、広報することができた。授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○稲作・そろばん・ミシン・読み聞かせ・コンピュータ・百人一首・英語活動・スキー等の学習支援がランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。
次年度に向け た改善の方向 性	網野学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。短期の達成目標「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」と「12の具 体的方策」で、更に成果の見える取組を行う。 1 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。 2 主体的・対話的な授業研究に取り組み、学力の安定・充実を図る。 3 指導と評価の一体化を図る取組を行い、学力の向上を図る。 4 家庭と連携し、生活習慣を確立させ、家庭での学習の充実を図る。		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>網野学園小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」を目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きややりぬく子 	<p style="text-align: center;">具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ルールの内在化」豊富な人間関係づくり等を積み上げることで、満足群が10ポイント増加した。 ○いじめ事象等の課題に対して、組織的に対応できた。 △学力充実の取組を進める際、全校が一斉に、明確な目標を持ち取り組めるよう工夫改善をする。 △全児童欠席0の日数(全児童出席日数)を増やす。 △保護者、地域との連携を一層推進する。 	<p>1 学校再配置4年目。児童が安心して学校生活を送り、各自の力を最大限発揮できる教育環境をつくる。</p> <p>2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育推進</p> <p>3 「いごこちのよい」「毎日登校できる」「よく学ぶ」「信頼」をキーワードとした学校経営 網野南7030プロジェクト</p>
評価項目	重 点 目 標	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>基礎的・基本的な学習内容の習熟と、思考力・判断力・表現力の向上を図る。</p> <p>「あかるく元気に進んで学ぶ子」「児童がよく学ぶ学校」</p>	<p>○「これだけは授業編」を授業研究の中心にし、計画的に授業研究を積み上げ、学び合うことができた。他の教師のよさを自己の実践に取り入れ授業力を高め合うことができた。</p> <p>○少人数加配を中心に、計画的に放課後補習やふりかえり学習をしたり、学期末計算チャレンジテストにむけて関連のプリントを家庭学習で反復させたりするなどし、学力向上に繋がった。</p> <p>○年度末のDRRの結果は、平均比において10項目中すべてにおいて年度初めの結果を上回った。</p> <p>△主体的、対話的な学習の一層の推進</p>
<p>生徒指導</p>	<p>いごこちのよい学校、満足群70%以上を目指す。</p> <p>「みんななかよく支え合う子」</p> <p>「いごこちがよい学校」</p> <p>いじめ防止と解消に努める。</p>	<p>○アンケート結果、児童の観察等を参考に、年間を通して生徒指導の3機能を大切にしたい指導を継続することで、学級生活満足群を74%から1ポイント増、不満足群を8%から3ポイント減じる等、いごこちのよい学校づくりを推進することができた。</p> <p>○網野学園「これだけは」を全教職員が共有化することで、同一方向の指導をし、安定した環境を作り出した。</p> <p>○企画委員会で設定した目標を各分掌の動きと関係づけ、児童の指導へと繋げることができた。</p> <p>○問題事象に対して、迅速に組織的に対応した。</p>

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

<p>健康（体 育）・安全</p>	<p>全員出席日 30 日以上を目指す。 ※h 27 年度：16 日 h 28 年度：26 日</p> <p>「のびのび生き生きや ぬく子」 「毎日登校できる学校」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校が楽しみな学級経営、学校経営をすすめる。 ・登校が楽しみな授業づくりや特別活動を実施する。 ・家庭との連携による生活リズムの確立を目指す。 ・網野学園「これだけは！家庭編」の P T A との連携による推進を図る。 ・給食時間におけるランチルームでの全校一斉の食育指導を大切に、計画的・継続的に積み上げる。 ・配慮を要する児童について共通理解し、保護者面談等計画的・継続的に実施したり、個々の児童のニーズに応じた指導を進めたりする。 	<p>○「全員出席日 30 日以上」の目標を P T A と共に設定し、網野学園「これだけは！」（家庭編）を意識し基本的生活習慣の確立を図ったり、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりするなど丁寧な指導を継続したことにより、全員出席日を 35 日とすることができた。(3/5 現在)</p> <p>○給食の時間を、毎日全校が場を同じにする大切な場と位置づけ、全教職員で指導に当たった。その結果、配膳など当番活動をより円滑に進行したり、遅食児童が減少したりした。</p>
<p>危機管理</p>	<p>コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。「いじめ」等問題事象の早期発見・早期解消に努める。</p> <p>超過勤務の縮減に努める。</p> <p>安全な登下校の為の環境づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修。 ・校長通信等によりコンプライアンスに係る継続的な情報発信をする。 ・児童、教職員の人権を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・ P T A 役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・超過勤務縮減、効果のある学校の視点からも、年間を通して校務改善を進める。 ・超過勤務時間実態共有化と年間を通して縮減の働きかけをする。 ・見守り隊組織を整理し、組織としての機能化を図る。 	<p>○コンプライアンスハンドブックを活用して校内研修を実施したり、校長通信で新聞関連記事等を用いて、年間を通して情報発信したりすることで、教職員の危機意識やコンプライアンス意識を高めたりすることができ、問題事象の発生を予防できた。</p> <p>△午後 8 時を過ぎても仕事をしている教員がほぼ毎日いる。学校運営改善することで、超過勤務縮減に努めたい。</p> <p>○見守り隊組織である「南まもる君」の会員の再登録をし、仕切り直すことができた。降雪時の歩道等の除雪に対する関心を高め、除雪ボランティアの組織について検討できた。</p>
<p>特色ある学校づくり</p>	<p>開校 4 年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切に学校経営をすすめる。また校区の人・自然・文化について学び、まとめ、情報発信する。</p> <p>「信頼される学校」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再配置による「ひずみ」については、アンテナを高く張り、日常的に柔らかく対応し、改善し続ける。 ・地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。 ・学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。 	<p>○学校便りを各区分長さんの協力を得ながら、各戸に回覧することができた。地域の学校に対する関心を高めることに繋がった。</p> <p>○ホームページをほぼ毎日更新することで、児童のがんばりを地域に発信することができた。</p> <p>(年間約 43 万件・毎日約千件のアクセス)</p> <p>○広くなった校区で、各地区の特徴を活用した地域学習を展開し、郷土を知り、郷土に対する関心を高めた。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>◇家庭生活不満足な児童、低学力児童への一層の具体的な指導</p> <p>◇全児童出席日数を増やす。※早寝、早起き等基本的な生活リズムの確立</p> <p>◇授業と家庭学習の関連を強める等工夫することで、家庭学習の充実を図る。</p> <p>◇「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくり ◇働き方改革に係る学校運営の改善</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	
1	規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。	○ 図工科の授業研究を通して、網野学園の指導事項をふまえた研究を深めることができた。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。
2	すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。	○ 年間を通し児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができてきた。	2 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育の利点を生かした授業力の向上を図る。
3	思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	○ アメリカのマンチェスターメモリアル小との国際交流を行うことができた。	3 いじめ・不登校等、生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高める。
4	自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	△ 関係機関とも連携した教育相談活動を組織的に行うことができなかった。	4 国際交流を通して国際理解教育実践を進展させる。 5 勤務時間縮減に努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として 教育課程 学習指導	・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・網野学園推進会議の提案をもとに「これだけは!」を、全校でやりきっていく。 ・「これだけは!」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。 ・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・網野学園と連動して、家庭学習がらばり週間を実施し、効果を高める。(PTAとの連携事業)	○2カ月サイクルで示した「合い言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○網野学園「これだけは!」をもとに学習意欲を高める指導を日常的に行なった。アンケートでは、92.1%の児童が「学習に意欲的に取り組めた」と肯定的に回答した。 ○家庭学習がらばり週間は、取組として定着し、学年にあった学習時間の意識は94%と高かった。 △家庭学習がらばり週間をさらに、PTAと連携した家庭学習の取組に広げることができなかった。
生徒指導	・網野学園「これだけは!」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・「島小システム」を機能させる。目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。 ・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	・児童の活動に規律を意識させるとともに、互いに認め合う場面を作り評価していく。 ・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行う仕組みを定着させる。 ・児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。	○企画委員会を毎月開催し、児童実態に即した指導目標の設定、共有化を図った。また、学期ごとの内部評価アンケートを実施し、組織的な改善を行った。 ○生指部を中心に組織的な対応が迅速に行えたので、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。 ○全校の場での教師の評価の視点が一致しており、児童の自己肯定感を高めながら、善悪の判断等の価値を育てる指導ができた。 △生徒指導の三機能について校内で研修を行うことができたが、日々の児童指導にその視点を生かすことは不十分さが残った。

健康（体 育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園家庭編に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・ 健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・ 安全への実践的態度の育成を図る。 ・ 食育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・ 朝の体力づくりの更なる充実を指し、意欲を高める取組を進める。 ・ 日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させせる場面を作る。 ・ 実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の体力づくりは見通しをもたせ計画的に行うことで、児童が個々の目標に向かって意欲的に取り組んだ。高学年の全力で取り組み姿が、低学年へのゴールイメージとなり、一人一人が力を伸ばした。 △ 校内での安全な生活は指導を続けているが、廊下歩行など徹底できない課題が残っている。 △ 「これだけは(家庭編)」をPTA活動の中で共有する時間設定がとれなかった。
特色ある 学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動指導力の向上を図る。 ・ 豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・ 「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「外国語活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合える授業づくりを目指す。 ・ マンチエスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、異文化体験を計画的に豊かにする。 ・ 「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イングレウッド小学校とライブ交流が実現し、学んだ英語を実際に生かせる体験ができたことで、児童の「外国語活動」の授業への意欲がさらに高まった。 ○ 教員が英語を学ぶ研修の機会を校内で設定し、担任がClassroom English を使って授業をした。教員が英語を話すモデルとなり、相槌や積極的にコミュニケーションを図ることの大切さに気付いた。他教科の授業にも効果が広がった。 ○ 海岸清掃や白砂青松を守る取組への参加を通して、児童は「琴引き浜」や地域の自然に対して高い関心を持つことができた。
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害傾向の児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。 ・ 就学指導の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 配慮の必要な児童・保護者と学校が丁寧な懇談をし、指導の充実を目指す。 ・ 適切な就学指導を進め、該当保護者の理解を得られる取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育支援委員会が中心となり、外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。児童・保護者への支援、担任への助言等により、児童の困り感に対応した支援につなぐことができた。 ○ 配慮の必要な児童の保護者との面談を複数体制で実施することができた。次年度さらに取組を継続し、より多くの児童への適切な指導・支援が実施できるようにする。 △ 必要な個別の支援計画・個別の指導計画を作成したが、それを活用した効果的な指導・支援には至らなかった。
次年度に向け た改善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> ① 府小研「外国語活動」研究指定を軸として、全ての教職員が協働的に参画できる研究推進体制を確立する。 ② 外国語活動で児童に付けたたい力を国語科の「話す・聞く」とリンクさせながら言語の力として教職員が共有し、日常の授業実践を積み上げていく。 ③ 網野中学校との連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、網野学園として取組を進める。10年間を見通した保幼小中との連携を図りながら、自校だけではできない学習や活動を積極的に仕組んでいく。 ④ 教育的ニーズに応じた支援を、外部の専門機関との連携も図りながら、多面的な就学指導を組織的・計画的な進行管理のもと行う。 		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立橋小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりにぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 「毎日元気に登校したくなる学校」を目指す。	○ 網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付けたい力を意識し、授業づくり、生活習慣の確立、家庭への働きかけ等、教育活動全般に波及させ、課題解決の取組を推進することができた。 ○ 学習指導では、研究推進部、学力充実部の方針に沿って全学年ともに授業での言語力育成、ドリル時間等を活用した計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。 ○ 特別活動部、生徒指導部、特別支援教育部等が、児童会活動の充実、月目標の取組などを進め、全校児童の絆が深まり規範意識の向上が図れた。 △ 日常的に隣接学年で教材研究等を行い授業力向上に努める。 △ 要配慮児童等への対応について共通理解を図る。	子どもたちの「元氣と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して楽しい学校にしよう！「毎日元気に登校したくなる学校」 ○ 智恵をみがこう！ 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望をもてる児童を育てる。 ○ 自分の考えをもち主体的に物事に取り組む力を養う。 ○ 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 ○ 何でも最後までやりぬこう！ ○ 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 子どもたちの「元氣と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して楽しい学校にしよう！「毎日元気に登校したくなる学校」 ○ 智恵をみがこう！ 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望をもてる児童を育てる。 ○ 自分の考えをもち主体的に物事に取り組む力を養う。 ○ 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 ○ 何でも最後までやりぬこう！ ○ 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすこと 2 意欲的に学び、将来に夢と希望をもてる児童を育てる。 3 自分の考えをもち、主体的に物事に取り組む力を養う。 ◇ 学級づくりと授業づくりの連動 ◇ 言語活動の充実 ◇ 主体的・対話的な深い学び ◇ 指導と評価の一体化	・学級づくりと授業づくりを連動させ、安定した学級経営のもと、基礎基本の内容を確実に身に付けさせる。 ・網野学園の授業公開を含め各担当が年1回以上の「研究授業」を行うこと、また「実践開発プロジェクト」の研究を広げることを通して、指導力を向上し、児童に「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を体感させ、児童の学習意欲を高める。 ・各教科・領域等に言語活動を適切に位置付け、思考力・判断力・表現力を育む。 ・「TANGO 魅力伝え隊」の取組を各学年で進め、総合的な学習の時間・生活科等を軸に課題解決学習、探究活動を大切にしたい児童の主体性が高まる学習を行う。 ・網野学園構想に基づき、入学前からの10年間を見通した系統的な指導を行い学力の伸長を図る。 ・目標を明確にするとともに振り返りを大切に、きめ細かに指導することで指導と評価の一体化を図る。 ・全校的な取組を実施し、その学年で付けなくてはならない学力をしっかりと身に付ける。(学力充実期間・家庭学習ががんばり週間・校内漢字検定への挑戦・体力向上など)	○各学級の児童実態を踏まえて、学級経営案を学期ごとに交流・検証し、安定した学級経営を行い、年間を通して児童が落ち着いて授業に臨むことができた。 ○△網野学園(6年)に加え市小研(3・5年)も授業公開を計3名の教員が行い、校内でも1・2・4年、なかよし学級が授業研究に取り組み「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせることで主体的に学ぶ児童が増えた。日々の授業づくりを通して指導方法を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」をテーマに、研究推進部が牽引し指導力を磨き授業改善に取り組み。 ○△「TANGO 魅力伝え隊」の取組を各学年で進め、総合的な学習の時間・生活科等を軸に課題解決学習、探究活動を行い、全学年が学んだことをリーフレットで発信することができた。取組内容について精査する必要がある。 ○△家庭学習ががんばり週間の取組では、家庭の支援も得られ、家庭学習忘れが減少した。全校でやりきる取組をさらに充実させたい。
生徒指導	1 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。	・授業の中で、ペア学習、グループ学習を取り入れ、学び合いのものとコミュニケーション能力を育む。(授業に生徒指導の3機能)	○△ペア学習、グループ学習を取り入れ、コミュニケーション能力を育むことを大切にしたい。各教科、領域等自分なりの考えをもち、伝える力を付けたい。

	<p>◇道徳教育、人権学習の充実</p> <p>◇学級活動、異年齢活動、児童会活動の充実</p> <p>◇教育相談部会、生徒指導部会の機能化</p> <p>◇法やルールに関する教育（話し合い活動）</p>	<p>・道徳教育、人権学習を実態に応じて計画的に行い、規範意識の醸成、差別、いじめを許さない研ぎ登まされた人権感覚と人権認識を培う。</p> <p>・学級活動、異年齢活動を通して、自分を律し他と調和できる力や体や命を大切にすることを培う。また、児童会行事やハピネスカードの取組などを通して、思いやる心、支え合い、認め合う心を育成する。</p> <p>・定例の教育相談・生徒指導部会の機能化を図り、カードA～Eの作成・活用を行い、支援が必要な児童についての確に把握し、全校体制で指導に取り組む。(長期欠席者0)</p>	<p>○△日々の指導及び人権旬間の取組を通して、人権感覚の高揚を図ることができた。次年度より特別の教科道徳となることを踏まえ、「考える、議論する」道徳の時間を全担任が指導できるように研修を実施する。</p> <p>○学級活動、異年齢活動を通して、思いやる心、認め合う心を育成することができた。</p> <p>○教育相談・生徒指導部会の定例化を行い、実態把握、二一ズに対応した支援等について組織的に対応できた。</p>
健康(体育)・安全	1 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。	<p>・月目標の取組を進め、自己の目標、学級目標の具現化に向けてこつこつと努力する姿勢を大切にしている。</p> <p>・強い心、体力づくりの取組として、朝マラソンや朝縄跳びの充実を図り、体を動かすことが好きになる児童を育成するとともに、基礎体力の向上を図る。(全校児童が登校できた日100日)</p> <p>・よい生活習慣の確立を目指した取組(生活点検活動)を進めるとともに、家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>・危険予知能力を育成し、校内外の事故防止の指導を充実する。(安全指導、防災・避難訓練等)</p>	<p>○生徒指導部から実態を踏まえた月目標の設定・提案があり、全学年が具体的な取組を行い生活が向上した。</p> <p>○朝の体力づくりの取組の中で、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付けた。</p> <p>△生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、さらにきめ細やかな指導、支援、及び家庭への働きかけが必要である。</p> <p>○6年生を中心にチャラシ配りや看板作り、1年生の交通安全教室などに取り組み、無事故であった。</p>
研修(資質向上の取組)	1 学校課題を踏まえた研修テーマを意識した研修を行うことで、課題克服を目指す。	<p>・研究推進部が重点研究推進計画に基づいた重点研究を推進し、国語科「物語文」の読み取りを通して「表現力」を高める指導方法について研究する。</p> <p>・教職員の得意分野の研修が深まる機会を大切にするとともに、校内研修で外部の研修で学んだことを全体に広め、国、府、市の教育改革及び次期学習指導要領の準備・移行について学び合う。</p>	<p>○△研究推進部が重点研究推進計画に基づいた重点研究を推進し、国語科「物語文」の読み取りを通して「表現力」を高める指導方法について研究した。次年度は、算数科の研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」を追究したい。</p> <p>△新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合えるように研修を設定したい。</p>
特別支援教育	1 ユニバーサルデザイン視点を取り入れた教育環境の充実に努める。	<p>・すべての教育活動の中で、ユニバーサルデザイン視点の大切にするとともに教育環境を充実し、誰もが「わかる」「できる」指導・支援ができるようにする。</p> <p>・カードA～Eの活用を図り、教職員が配慮が必要な児童について共通理解をした上で、教育相談・生徒指導・特別支援教育各部が連携し個別の支援を組織的に進める。また、SC、SSWの活用、関係諸機関との連携を進める。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの視点を大切に、誰もが「わかる」「できる」指導・支援として、めあて・学習の流れの明示を行い、主体的に学ぶ児童の姿が増えた。</p> <p>○SS2名の個別の支援は効果的だった。</p> <p>○教育相談担当がSC、SSWとの連携をコーディネートし、専門的な視点で児童の見立てや具体的な支援について助言を行うことで担任が実践に生かすことができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性		<p>「学力の充実・向上」が最重要課題、その具現化のための「特別支援教育の充実」(ユニバーサルデザイン等)の外部人材を活用し、専門性から学び効果的な指導・支援を行う、楽しい学校づくりをする。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの視点を大切に、誰もが「わかる」「できる」指導・支援として、めあて・学習の流れの明示を行い、主体的に学ぶ児童の姿が増えた。</p> <p>○SS2名の個別の支援は効果的だった。</p> <p>○教育相談担当がSC、SSWとの連携をコーディネートし、専門的な視点で児童の見立てや具体的な支援について助言を行うことで担任が実践に生かすことができた。</p>

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立豊栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>丹後学園教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どもの育成」を目指し、目標達成のための具体的な取組を通して(具現化を目指し)学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ意欲があふれる学校」「笑顔いっぱい豊栄っ子」をテーマに、学習の楽しさを実感させ確かな学力を定着させる。その学びを活かし、考え方や見方を広げるとともに、豊かな社会性を身に付けていく教育を行う。 	<p>○丹後学園の研究主題「主体的な学び」を通して、「算数」の授業づくり・研究を進め、児童の基礎学力の向上と言語活動の充実の向上に努める。</p> <p>○丹後学園としての取組を通して更に開かれた学校づくりを目指す。</p> <p>△「学校の施設・設備、教育環境」の改善に努める。</p> <p>「信頼される学校」を目指し保護者・地域に協力を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の再配置に向け、間人小学校と一緒に教育計画案づくりや交流等できるところを行っていく。 	<p>めざす児童像の具現化に向け、全職員が参画した組織的な教育活動を日々推進していく。(チームとして)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の取組と関連付けた研究を積み上げ、授業実践力の向上と改善に努める。(気軽な授業公開通して高まりあえる教師集団) ・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。 ・行事や取組を通し児童が自分や友達を大切にすること(できる)豊かな人間関係や社会性の育成に心がける。 ・児童の様子や気付き等、何事に対しても報告・連絡・相談・確認ができる教職員集団を目指す。 	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>めざす児童像の具現化に向け、全職員が参画した組織的な教育活動を日々推進していく。(チームとして)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の取組と関連付けた研究を積み上げ、授業実践力の向上と改善に努める。(気軽な授業公開通して高まりあえる教師集団) ・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。 ・行事や取組を通し児童が自分や友達を大切にすること(できる)豊かな人間関係や社会性の育成に心がける。 ・児童の様子や気付き等、何事に対しても報告・連絡・相談・確認ができる教職員集団を目指す。 		
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <p>○楽しい学習体験を味わわせる。(学力・授業力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を重視した授業改善と学習内容の定着を目指し活用する力を伸ばす。(丹後学園研修会・実践交流、小小連携を基本にした合同行事等) 	<p>具体的方策</p> <p>学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先を見通した学習計画の下、意欲を引き出す指導・学力向上に繋がる指導を行う。(授業研究・公開授業) ・各学年が学習課題の考察をもとに回復指導を行う。丹後学園の取組と関連付け、家庭学習の環境づくりとして保護者にも協力を求める。(学習の手引き配布、丹後学園としての家庭学習頑張り週間) ・丹後学園の取組と連携した言語活動の取組を授業だけではなく、特別活動等でも推進する。 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○発表ボードや電子黒板等IC機器を活用したことで、楽しく学習に向うことができた。</p> <p>○丹後学園と本校の研修をつなぐことができた。「家庭学習がやっぱり週間」を行うことで家庭学習への意欲付けとなった。</p> <p>△「長文を読む・考えをまとめ書いて書く、人の話を聞く」力をさらに伸ばす。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>○認め合いや児童の自尊感情を重視した生徒指導を進める。</p> <p>○丹後学園学校生活のきまり8か条や校内の約束を守り人間関係づくりを進める取組を実施する。</p> <p>○いじめ・不登校の未然防止に努める。</p>	<p>丹後学園、児童と教師が一体となって、よりよい学習・生活環境づくりを目指した取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権的な視点を基盤にした学級経営と諸活動を通して、児童の主体性やリーダー性を育成する。(異年齢活動) ・支援を要する児童への個別指導を丁寧に行う。(教育相談の充実、欠席状況の把握、学園の実態交流、諸機関との連携、家庭との連携) ・職員会議や校内研修で児童の実態交流や研修を行う。 ・職員室で児童の様子や気付きを出し合う。(いじめ・人権アンケート等の活用) 	<p>○音楽フェスティバルや学習発表会等の行事や取組を通して感動や達成感を味わわせることができた。</p> <p>○不登校児童や配慮を要する児童に対して組織的な対応ができた。</p> <p>○児童だけでなく、保護者対象の非行防止教室が実施できた。</p> <p>△再配置・中学校への接続を見据え、配慮を要する児童や気になる児童の記録を残していく。</p>		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					

健康（体育）・安全	<p>○家庭と連携し、健康で安全な生活を営む実践力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育指導や体力づくり、基本的な生活リズムを定着させる取組 ・避難訓練・事故防止・防犯指導・情報関係等の研修実施 	<p>日常的な活動、保健だよりや給食だより・学級だより等を活用しながら健康・安全に対する意識を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり、生活リズム、食育指導、安全意識等を中心とした学級指導を行う。（給食試食会実施） ・よりよい生活環境を目指し、家庭との連携・協力依頼を行う。（学習の手引き、生活リズムの見直し等の取組） 	<p>○登下校の安全を考え、付き添い登校・付き添い下校を実施した。（特に積雪時）</p> <p>○雪が多い日地域の方に家庭の除雪機で除雪してもらえ大変ありがたかった。</p> <p>○今年度は非行防止教室を3年以上で実施した。善悪の判断や情報機器の安全な扱い方について学ぶことができた。</p> <p>△生活リズムづくりの協力依頼を家庭へ更に行う。</p>
開かれた学校づくり	<p>○地域の自然や文化を大切にす る視点を基本に学習を進め、 地域への情報発信をする。 （保護者や地域との協力・連携 強化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を愛する気持ちを育む教育活動を実践する。（地域素材・人材との出会い、読み聞かせ、総合的な学習の時間・食育の取組、特色ある学校・児童会行事等） ・再配置をふまえ、児童が活動している様子を地域に発信するとともに、参観等呼びかける。（学習発表会、授業参観、なわとび大会等） ・学校だより、学級だより、ホームページ等を通し情報発信を行う。（小中一貫加配・コーディネーターと連携） 	<p>○地域・保護者、学校支援ボランティア等の協力で学習への意欲感心・広がり、地域の魅力を見直すことができた。人との出会いやふれあいを大事にした。</p> <p>○学校便りや学級通信だけでなく、ホームページを更新し情報発信ができた。</p> <p>△地域にも学校行事や取組の参観を呼び掛ける。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>○「楽しく学ぶ」ことのできる 授業実践の充実をめぐる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を通して ・研修会を通して ・学園三校担任会を通して ・自己研鑽を通して （丹後、地域を知る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の専門性・指導力の向上を図るために研修を実施する。（授業公開を通して高まりある教師集団） ・丹後学園の授業公開等も含め、日常的に授業公開を行い参観することで学ぶ姿勢を持つ。（人の授業で学び・指摘しあえる関係づくり、学園担任会の充実） ・教職員自身もコミュニケーション能力を身に付け学び合う。（指導法について聞く・教え合いができる教職員集団） ・外部研修には積極的に参加させる。研修で学んだことを伝達し実践させる。 	<p>○音楽フェスティバル出場に向けて総合教育センターの出前講座を実施した。学んだことを各担任が授業で活かすことができ児童も自信を持って発表できた。</p> <p>○丹後学園として見学や教材研究を一緒に行うことで、担任の学びを広げることにつながった。</p> <p>△コミュニケーション能力の育成に向けた研修を更に行い、日々の教育活動に活かす。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>① 丹後学園教育目標と丹後学園研究主題と合わせ、本校の基礎学力の定着・コミュニケーション能力の育成に力を入れる</p> <p>② 最後の一年として行事や取組の参観を地域にも知らせるとともに、児童のがんばりを知ってもらうための機会を作る。保護者・地域にも協力を求める。</p> <p>③ 新学習指導要領に向けた内容や研修、先を見通しながら教育課程を進めるとともに、間人小学校との連携・連絡・相談等大切にする。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立間人小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
教育目標 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ＜目指す学校像＞ 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校	重点目標 ・研究主題を「自分の考えをもち、仲間とつながりながら思考を深め、豊かに表現する児童の育成」～「絵・図・表・グラフ」と「式」とを関連づけて考える学習を通して～と、児童の学力課題を解決する。 ・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	基礎基本を定着させる学習を、全校で取り組むことができた。 ○縦割りの活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学習の定着を詳細に検証し、課題分析を授業づくりにつなげる。 △集団生活での心得や思いやりの育成は低学年から徹底する必要がある。	○基礎基本を定着させる学習を、全校で取り組むことができた。 ○縦割りの活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学習の定着を詳細に検証し、課題分析を授業づくりにつなげる。 △集団生活での心得や思いやりの育成は低学年から徹底する必要がある。	1 授業研究を中心に、ねらいが明確でわかりやすい授業を計画的に進める。 2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 3 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育てる。 4 PTA・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。(小中一貫教育を含む)	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 授業研究を中心に、ねらいが明確でわかりやすい授業を計画的に進める。 2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 3 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育てる。 4 PTA・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。(小中一貫教育を含む)
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	・研究主題を「自分の考えをもち、仲間とつながりながら思考を深め、豊かに表現する児童の育成」～「絵・図・表・グラフ」と「式」とを関連づけて考える学習を通して～と、児童の学力課題を解決する。	・研究推進部が中心となって算数を研究の柱とし、ねらいが明確で児童がわかりやすい(主体的な学び等の具体的な手立てがある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。 ・算数科における「絵・図・表・グラフ」と「式」とを関連づけて考え、思考力・判断力・表現力の育成を図る指導のあり方を研究する。	○授業研究においては指導の系統性を意識し、既習内容をもとに児童が主体的に考える授業づくりを研究することができた。 ○電子黒板を活用し、児童に対してより視覚的に分かりやすい授業づくりをすることができた。 △研究主題に関わる「絵・図・表・グラフ」と「式」とを関連づけて考えるという授業展開を効果的に活用することができなかった。	○授業研究においては指導の系統性を意識し、既習内容をもとに児童が主体的に考える授業づくりを研究することができた。 ○電子黒板を活用し、児童に対してより視覚的に分かりやすい授業づくりをすることができた。 △研究主題に関わる「絵・図・表・グラフ」と「式」とを関連づけて考えるという授業展開を効果的に活用することができなかった。	○異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとして意識が高まり、低学年への指示や配慮ができた。 ○定期的に個人面談を実施し、児童の困っていることなどを丁寧に聴き取り、児童の実態把握を行うことができた。 △集団生活での心得や人を思いやる心の育成について、低学年から徹底する必要がある。
生徒指導	・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・丹後学園の生活のきまを守り、教師が児童の良さをまいた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、計画的に伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・生徒指導の3機能を生かした指導のもとに、教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。	・丹後学園の生活のきまを守り、教師が児童の良さをまいた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、計画的に伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・生徒指導の3機能を生かした指導のもとに、教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。	○異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとして意識が高まり、低学年への指示や配慮ができた。 ○定期的に個人面談を実施し、児童の困っていることなどを丁寧に聴き取り、児童の実態把握を行うことができた。 △集団生活での心得や人を思いやる心の育成について、低学年から徹底する必要がある。	○異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとして意識が高まり、低学年への指示や配慮ができた。 ○定期的に個人面談を実施し、児童の困っていることなどを丁寧に聴き取り、児童の実態把握を行うことができた。 △集団生活での心得や人を思いやる心の育成について、低学年から徹底する必要がある。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年体育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検などの取組を行う。 	<p>○授業開始前にサーキットトレーニングをすることで、運動するための準備ができ、安全に体育の学習を行うことができた。</p> <p>△校外でのけが予防や安全な行動ができるよう指導の継続が必要である。</p> <p>△就寝時刻を早くし、意欲的な学習につなげることができるとともに、保護者に働きかける必要がある。</p>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの安全（生活・交通・災害） ※安心安全な学校生活ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につなげる。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などをすることで教育環境を整える。 	<p>○学校支援ボランティアとの連携により登校については一列で安全な登校ができた。</p> <p>△校内の危険箇所や点検を行い修繕につとめたが、塩害により常に修繕が必要である。</p> <p>△下校については、児童の規範意識も弱く安全な下校ができるように指導をする必要がある。</p> <p>△保護者への情報モラルに関わる啓発、情報提供を継続して行う。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校使い、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 ・PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 	<p>○学校日より、ホームページにより学校の状況を保護者・地域に発信することについては、保護者アンケートからもその効果を確認することができる。</p> <p>○地域人材やボランティアの方々の活用を積極的に図ることで、学習効果をあげることができた。</p> <p>△教師の専門性はもちろんこと、社会人としての良識ある言動や子どもの内面に迫る指導力の育成に全力を挙げる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力・体力の向上、読書活動の推進 2 教育活動を通じて法やルールを学ぶ 3 思いやる心、自尊感情、自己有用感の育成 4 丹後学園の研究主題である「コミュニケーション能力の育成」を目指す 		

平成 29 年度 学校評価 自己評価報告

学校名 (京丹後市立宇川小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもたちの育成</p>		<p>○家庭学習の習慣化を図る取組等の充実と継続により、宿題に取り組みにくい児童も自分から宿題に取り組むようになった。 ○同学年以外の人との遊びの取組を多様に行ったことで学校生活に新たな楽しさが生まれ、児童の主体的な活動や安全に気をつけて体を動かすことの経験が増えた。 △授業や学校生活で必要な「伝え合う力」は、児童に確かに身に付いているとは言いが切れない。 △地域学習は進んだが、地域人材の活用や地域素材の題材化・指導計画化は計画通り進まない部分があり、不十分なところもあった。</p>		<p>1 目指す児童像の実現にむけて、知・徳・体の3視点に対応する組織が機能を発揮して教育活動を展開する。 2 習得と体験・実践をリンクさせ、児童の活躍を学校生活全体の中につくり、児童の主体性の育成につなげる。 3 へぎ地・小規模校の特性を生かし、地域との連携を増やし、個が活躍する学校づくりに取り組み。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題 (自己評価)	
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 話し伝える活動、聞き受け取る活動を研究し、授業改善を図る。 2 少人数であることの特性を生かし、児童一人一人の学力の定着と伸長を促す。</p>	<p>1 授業において「話す・聞く」「伝え合う」ことを指導することと教育活動全体の中で多様な伝え合い・話し合う活動を児童に実践させることの双方を連付ける。 2 児童一人一人の学力課題を分析し、個別の指導方針をもち、個の課題に応じた指導を継続的・改善的に行う。 3 家庭学習の習慣化を図る取組と基礎学力教科週間の取組を学期に1回行う。</p>		<p>○研究活動により児童の伝え合うとする意識は高まり、教育活動全体での話し合い活動が充実してきた。 △児童の学力を診断テストにより分析し、個別の指導方針を立てたが、保護者アンケートの「授業内容を理解しているか」「分かり考える授業か」は、9割に満たなかったことから、分析結果を生かした指導は、一層充実して行う必要がある。 △学力向上を図る取組は充実したが、学力の定着と伸長は、さらに継続して図らなければならない。 ○家庭の協力により、おおよその児童について家庭学習の習慣化が見られた。自分から学習に取りかかることは、保護者アンケートでも8割であるので、さらに確かにしたい。</p>	
生徒指導	<p>1 児童自らが課題を解決しようとする実践力を育てるとともに、安定した学校生活を児童に送らせる。</p>	<p>1 生徒指導部と特別活動部とが連携して生活目標を設定し、児童に振り返りをさせながら取り組ませる。 2 児童の話し合う活動を多様に計画し、話し合いにより課題を解決する体験を児童に積ませる。 3 人権旬間を年2回行い、言葉遣いやいじめについて児童に指導する。</p>		<p>○児童が学級で生活目標を立て、取組を通じて課題を解決しようとする努力をした。振り返ることにより、自他のがんばりを自覚し、次の課題を見出し、いき、安定した学校生活を送ることができた。保護者アンケートの「協力して取り組む」「進んであいさつする」は肯定的意見が9割と高く、児童の姿としても現れた。 ○人権旬間を年に2回に増やし、言葉づかいや自他を大切にすることを重点的に指導した。その結果、人権意識が高まった児童が見られた。児童アン</p>	

	2 自他の人権意識の高揚及び規範意識の醸成を図り、いじめ・非行の未然防止に努める。	4 いじめアンケートの活用と日々の児童状況把握により問題点を早期に発見し、指導につなげる。	<p>アンケートの「気持ちを考えて」「乱暴な言葉を使わない」で、肯定する回答は9割を超えているが、引き続き、相手や目的等に応じた言葉を教える指導を充実させたい。</p> <p>○いじめ防止対策委員会によるいじめアンケートの分析、非行防止教室・葉物乱用防止教室による指導に力を入れ、早期発見と未然防止に努めた。</p>
健康(体育)・安全	<p>1 健やかな体と生活づくりに関わる児童の関心や実践力を高める。</p> <p>2 児童の安全に関する知識を養い、正しい判断力や行動力、危険を予想する能力を育てる。</p>	<p>1 学校行事と体育の授業との関連を図り、「挑戦・競争・おもしろさ」がある体力づくりの取組を行う。</p> <p>2 安全に関わる行事及び学級指導等で、外部講師による学習や複数教員の連携による指導を行う。</p> <p>3 異年齢による遊びや戸外遊びを仕組み、危険予測、心身の発達、運動能力の向上を促す。</p>	<p>○体力づくりでは、児童の関心や実践意欲を向上し持続させるように創意工夫し、体育的行事と関連させながら効果的に取り組めた。</p> <p>○安全に関わる行事・指導は、毎日の天候や学校生活にある危険予防も含んで丁寧に指導し、大きなけがや事故を防いだ。</p> <p>△児童アンケートによると「安全に気を付けている」という回答が9割を超えているが、事故につながりかねない行動もたまに見られる。児童の危険予測能力を高めて安全に過ごすためには、安全指導や戸外運動を今後も充実させていきたい。</p>
特別支援教育	<p>1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に実践する。</p> <p>2 特別支援学級児童についての児童の理解を深める。</p>	<p>1 個別の指導計画・個別の支援計画等に基づき、PDCAサイクルで指導する。</p> <p>2 保護者や関係機関との連携を強め、定期的に懇談する。</p> <p>3 特別支援学級のわくを超えた学級間の交流や児童間での交流活動を多様に行う。</p>	<p>△個別の指導計画は作成したが、それを基に教室で支援することやその計画を評価することは、レベルを上げていかなければならない。</p> <p>○関係機関と連絡会をもち、指導・助言を受けて効果的な指導支援に努めた。保護者との懇談は、理解と協力が得られ実施できた。今後も理解と協力を得て、効果的に実施していきたい。</p> <p>○特別支援学級児童についての児童の理解は、これまでの日常的な児童間のかかわりや年度当初の指導によりほぼ深まったと思える。</p> <p>△児童間での交流活動は、回数が少なく、十分だとは言えない。</p>
特色ある学校づくり	へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学習がある教育活動を展開する。	<p>1 伝え合うことを活動課題とし、体験活動、自主活動、異年齢集団での活動等により多様なコミュニケーションを児童に経験させる。</p> <p>2 「丹後学」の展開において地域や家庭と連携し、地域を題材とした探究学習を充実させる。</p> <p>3 丹後学園のへき地・小規模校加入校及び与謝地方へき地・小規模校教育研究会と共に研究・研修する。</p>	<p>○伝え合い・コミュニケーション活動は、各教科、総合的な学習の時間、学校行事等でも積極的にを行い充実した。地域を知り、地域の良さを学び、地域と自分の今後を考える活動が展開され、児童はよい学びをし、地域を大切にしたいという思いを高めた。</p> <p>△地域の理解と協力により、地域を題材とした探究学習がとてもしっかり効果的に出来た学年はあったが、全部の学年でできるとよかった。</p> <p>○へき地・小規模校加入校及び与謝地方へき地・小規模校教育研究会と共にへき地・小規模校における指導と授業を研究した。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 学習指導は、重点研究により国語科の「話す・聞く」の指導について研究を深め、高めたい。自分の意見を説明する、友だちの意見を聞いて考えを深めるという方向から授業づくりを向上させ、個に応じた指導方法の工夫改善により学力の向上を図る。</p> <p>2 生徒指導と特別活動の連携による異年齢活動や児童主体の活動を仕組み、児童が活躍する場の充実を図る。そのことにより、いじめの未然防止や自他を大切にすることの育成、規範意識の醸成、体力向上と危険予測能力の育成につなげたい。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、地域の特徴を生かした教育課程の編成を行う。日常の教育活動を充実させながら、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を行い、児童が主体的・対話的な学びを通し、学力が向上する学校づくりを推進する。保護者・地域、関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>		<p>○校内等の研修や学園の合同授業研等を通し、日常における授業改善や授業実践充実の意識が高まるとともに、重点教科の国語科を中心に協働的、主体的・対話的な学びの授業づくりが進みつつある。 ○学習や生徒指導等を中心に、すべての教育活動の中で、組織的・協働的な運営の意識が高まってきた。 △基礎学力の充実、学習意欲の向上に向けた取組と豊かな心の育成に向けた取組を家庭と連携して進める。 △信頼される学校及び特色ある学校づくりを更に充実させるためにも、保護者・地域との連携を深める。</p>		<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を学園の取組とも連動させながら実践、推進することができた。 ○学力課題克服のために授業改善を行い、児童の学習意欲の向上につなげられた。 ○学校支援ボランティア、小中連携加配等を活用した学習支援を継続して行うことで、基礎的な学力の底上げにつながった。 ○重点教科の国語科を中心に主体的、対話的、協働的な授業づくりに向けた研修を充実させ、指導力の向上を図り、日々の実践に活かすことができた。 ○弥栄学園の取組(授業づくりの手引き、家庭学習等)と連動させて、校内の研究や取組を推進し、授業改善を図ることができた。 △個別課題、学級の実態に応じたきめ細かい指導を継続して行い、一人一人の児童や学校全体の学力の向上を図る。 △特別支援教育の観点から、ユニバーサルデザインの実践を推進し、児童の学習意欲や学力の向上につなげる。 △弥栄学園の取組と連動させた校内の取組を更に充実させる。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として</p> <p>教育課程 学習指導</p> <p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進する。</p> <p>2 授業実践力、指導力を向上させる取組を進め、学習内容の定着を図る。</p> <p>3 主体的・対話的な学びができる授業づくりを実践する。</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体のものとして指導を進める。 (1) 個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。 (2) 指導と評価の一体化を意識した授業づくりを行う。 (3) ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (4) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (5) 教職員が児童との信頼関係を構築し、児童が安心して思いを伝えたり学んだりできる学習環境整備と授業づくりを行う。 2 授業実践力、指導力の向上に向けた取組を進める。 (1) 学期ごとに学習指導強化月間を設定し、教師の指導力及び児童の学力向上の取組を進める。また、家庭学習においても、弥栄学園の取組と連動させ、家庭学習頑張り週間等の取組を推進する。 (2) 重点教科である国語科の授業研究及び弥栄学園の合同授業研究会を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。 (3) 出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。 3 主体的・対話的、協働的な学習活動を意識した授業づくりを進め、児童の学力向上につなげる。</p>	<p>○生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を学園の取組とも連動させながら実践、推進することができた。 ○学力課題克服のために授業改善を行い、児童の学習意欲の向上につなげられた。 ○学校支援ボランティア、小中連携加配等を活用した学習支援を継続して行うことで、基礎的な学力の底上げにつながった。 ○重点教科の国語科を中心に主体的、対話的、協働的な授業づくりに向けた研修を充実させ、指導力の向上を図り、日々の実践に活かすことができた。 ○弥栄学園の取組(授業づくりの手引き、家庭学習等)と連動させて、校内の研究や取組を推進し、授業改善を図ることができた。 △個別課題、学級の実態に応じたきめ細かい指導を継続して行い、一人一人の児童や学校全体の学力の向上を図る。 △特別支援教育の観点から、ユニバーサルデザインの実践を推進し、児童の学習意欲や学力の向上につなげる。 △弥栄学園の取組と連動させた校内の取組を更に充実させる。</p>			

生徒指導	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行う。</p> <p>2 人権意識や規範意識の高揚を図り、良好な人間関係づくりを行う。</p> <p>3 いじめや不登校の未然防止に努める。</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営実践を行い、自尊感情の醸成を目指す。児童が安全で安心できる学級経営を行う。</p> <p>2 望ましい集団活動や多様な体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。肯定的評価を基本とし、自己肯定感を育てる。また、非行防止教室、法やルールに関する教育等の指導を通して、規範意識を高める。</p> <p>3 児童の内面理解に努め、家庭との連携を密にする。教職員一人ひとりが児童、保護者との信頼関係を構築し、情報を共有化して、取組や対応等を丁寧に適切に、また組織的に、そして迅速に進める。</p>	<p>○日常的な異年齢集団活動を通し、高学年のリード性の育成と学年を超えた良好な人間関係づくりに向けた取組を進め、全校の一体感が深まった。</p> <p>○非行防止教室や法やルールに関する教育、様々な事象の教材化、家庭との連携等を通し、規範意識の高揚や心の成長はぐくまれ、不登校0につながった。</p> <p>△児童一人一人の内面理解や状況把握をきめ細かく行う</p> <p>い、家庭への丁寧で迅速な連絡、連携を強化し、保護者、児童との信頼関係をさらに深めていく。</p> <p>△生徒指導の3機能を生かした学級経営を行い、児童が安心して、安定した学校生活を送れるようにする。</p>
健康(体育)・安全	<p>1 食育と健康な心と体づくりの取組を進める。</p> <p>2 学校事故の未然防止と登下校の安全を確保する。</p>	<p>1 給食指導の中で食育を充実させる。また、年間を通した朝の体力づくり(マラソン、縄跳び)と毎学期の生活点検を通した生活習慣づくりを進める。</p> <p>2 毎月、校内安全点検を実施し、安全な施設管理を行う。また、登下校の安全指導を徹底するとともに、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。</p>	<p>○食育を含めた給食指導が、計画的に実施できた。</p> <p>○年間を通した体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力が身に付いてきた。</p> <p>○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりを進めることができた。</p> <p>○ボランティアの方々やと連携して安全な登下校ができ、事故0につながっている。</p> <p>△安全や健康を守る意識を高める。</p>
特別支援教育	<p>特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るため、個別の課題に応じた支援や指導方法の改善、指導の充実を図る。</p>	<p>1 個別の指導計画・支援計画等を活用し、本人や保護者のニーズに合わせた支援が行えるよう懇談を行い、個々の合理的配慮を明確にし、ながら、個に応じた指導の推進及び充実を図る。</p> <p>2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。</p>	<p>○障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組を家庭と連携して進めることができた。</p> <p>○懇談を定期的に丁寧に行い、合理的配慮を明確にして個に応じた指導を進めることができた。</p> <p>△さらに実態に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧に行う。</p>
特色ある学校づくり	<p>1 伝統や校風を大切にしながら、体験活動を充実させる。</p> <p>2 家庭、地域との連携を深める。</p>	<p>1 挨拶や歌声、異年齢集団活動等受け継がれてきた伝統や校風を大切に、継承する。本校の特色である異年齢集団活動に充実させた取組を推進する。</p> <p>2 保護者や地域の人材を積極的に活用した授業づくりや体験活動を充実させる。</p>	<p>○受け継がれてきた伝統や校風を大切にしながら取組を進めたことで、特色ある学校づくりにつながられた。</p> <p>○学習に保護者や地域の人材を積極的に活用し、体験活動を充実させることができた。</p> <p>△新たな地域の人材を確保し、特色ある学校づくりにつなげる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 校内研修を充実させ、指導力、授業実践力を高め、学習内容の習熟や定着、学力向上に向けた取組の推進を図る。</p> <p>2 児童一人一人の内面理解に努め、きめ細かな対応や指導を継続して行い、豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図る。</p> <p>3 弥栄学園小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた保幼小、小中、小中の連携した取組を更に推進する。</p> <p>4 信頼される学校づくりと特色ある学校づくりのために家庭・地域との連携を更に密にし、取組を進める。</p>		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
かしこく やさしく たくましく～自主・自立～ (1) 言語活動の充実 (2) 自己肯定感の醸成		肯定的評価のある風土により、安定した学習環境の確立 ○弥栄学園小中一貫実施校として、組織運営の確立 ○地域協働による学校文化の創造 △課題解決型の授業による基礎学力・活用力の育成		1 学力の向上 (授業づくり) 2 学級経営の充実 (学級づくり) 3 教職員の資質向上 4 信頼される学校づくり 5 小中一貫教育 (保小・小小・小中連携) の充実	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)		
教育課程 学習指導	1 学習規律の確立 2 言語活動の充実 「書く力」の育成 3 学び合える授業の構成 4 読書活動の充実 5 家庭学習の充実	1 弥栄学園「学びのルール」の徹底指導を行う。 2 全教科・領域の中で言語活動(特に「書くこと」)の充実に図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 3 安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し学力を定着させる。 4 図書支援員活用やPTAと連携し、読書に親しませる。 5 弥栄学園「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の習慣化を図る。	○学習規律が身に付き、しつかり聞き・考えることができるようになったと、90%の児童が実感している。 ○全教育活動において言語活動(特に書くこと)の重視により、表現することに抵抗がなくなった。 ○漢字テストを繰り返し実施し、3学期初日のテストでは、全校平均点が95.3点となった。 ○△学力充実加配を活用し少人数授業の実施や指導方法を工夫したが、学力の定着はすぐに結果が出ていない。 ○家庭と連携した読書指導により、全校で1万冊読破は12月に達成し、さらに記録を伸ばせた。 ○弥栄学園共通家庭学習の取組により、家庭学習が習慣化し、宿題や間違い直し等、やり切る癖がついた。 △様々な取組を駆使して実施しているが、個人差もあり、なかなか学力が定着したとは言いがたい。 △今後さらに、全校体制で興味を引く取組を実施し、学習意欲を向上させる必要がある。		
生徒指導	1 規範意識の醸成 2 ふるさと・人・友達とつながる力の育成 3 自分を尊重する心の育成 4 気持ちのよい挨拶の励行 ・挨拶・お礼・返事 ・失敗を素直に認め教材化へ 5 いじめの未然防止や早期発見・早期対応	1 全校児童が公平・公正に生活するためのルールやマナーを児童自身に考えさせ、守らせることで規範意識を高める。 2 学級遊びや異年齢活動等や保幼小連携、小中一貫連携を通して人間関係を高める。 3 自他のよいところを見つけ合う目とそれを伝える心と言葉をはぐくみ、習慣化させる。 4 PTA・地域と連携し、挨拶の心地よさを体得させる。「あいさつ・ありがとう ごめんなさい・返事」が素直に言える心をはぐくむ。 5 本校の「いじめ防止基本方針」を踏まえ、組織的にいじめの未然防止や早期発見・早期対応に努める。	○学校のきまりやルールを守り自分勝手な行動をすることなく、トラブルが激減した。 ○学級や異年齢での活動や遊びを意図的に仕組むことで、自発的に外で遊ぶ児童が増えた。 ○△「いいことメカネ」「スマイルリーダー」の取組により、自尊感情が高まってきたが、意欲的に取り組める児童が増えたとは言いがたい。 ○△PTAと連携し取り組んだが挨拶や返事がまだ小さい。 ○職員室へ入る時、名前と用件を言う等のマナーでは、100%の児童ができるようになった。		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	1 責任感の育成 2 体力づくりの推進 3 生活習慣の確立 4 チャレンジ精神の育成	1 係や当番活動、委員会活動では、自分の役割は責任をも ってやり遂げる力を育てる。 2 「ほげんだより」による保健指導や、食に関する指導、 生活点検の取組により、運動や栄養・睡眠が体に大切なも のであることを指導する。 3 PTAと連携し生活習慣を身に付ける為の取組を行う。 4 朝マラソン・朝縄跳び等、目標を持って取り組ませる。	○高学年を中心とした児童会活動や委員会活動で は、自主的な活動をさせることで、責任感が醸成 できた。 ○98%の児童がマラソンや読書等、「自分の記録にチ ャレンジすることができた」と、満足している。 △PTAと協力して早寝・早起き・朝ごはんに取り組 んだが、家庭での生活には課題が残る。 ○挨拶運動は、毎月PTAと一緒に取り組むことがで きた。 △交通事故はなかつたが、登下校中の不注意による 怪我が多かった。危険予知能力を高める指導が必 要である。
開かれた 学校 り	1 学校からの発信 2 地域学習や丹後学の充実 3 地域人材の積極的活用	1 弥栄学園や本校の教育活動を、保護者・地域へ発信し、 理解と協力を求める。（学校だより全戸配布・HP 等） 2 広い校区の学習を積極的に取り入れ、ふるさとを愛する 心情を育てる。 3 地域の方々の人材活用により、児童と地域の方を結ぶだ けでなく、学校が地域の核としての役割を担う。	○HPで教育活動をタイムリーに広報したことで、 理解が深まった。現在1日約500件以上のアクセ スがある。 ○生活科や丹後学により、地域学習を積極的に進め ることで、故郷の良さに気付く児童が増えた。 ○地域支援ボランティアの積極的な活動により、学 習効果や指導力向上だけでなく、学校が地域の核 としての役目を果たし、弥栄小地区の活性化につ ながった。
特別支 援 教育	1 支援を要する児童理解 2 障害のある児童の教育的 ニーズに応じた指導の充 実 3 発達上配慮を要する児童 等の教育相談の充実によ る、不登校・いじめの未 然防止	1 支援を要する全ての児童の理解に努めると共に、全児童 の為にもユニバーサルデザインを意識した教室環境・授業 を構築する。 2 関係機関と連携し、個に応じた指導の研修を深める。 3 全児童・全保護者が安心できる教育活動推進のために、 教育相談機能を高め、特に発達上配慮を要する児童等の 教育相談を充実させ、不登校・いじめの未然防止及び、早 期発見・早期対応に努める。	○発達障害を含む支援を要する児童理解や職員研修 に努め、全学年でユニバーサルデザインを意識し た学習環境や授業ができた。 ○支援学校や医療等の関係諸機関と連携すると共 に、個に応じた指導方法について全職員が研修で きた。 ○毎週の児童交流により、児童の心の変化を早期に 発見し、早期対応することができた。登校渋り傾 向にある児童については、早目の保護者面談によ り、改善できた。
次年度に向け た改善の方向 性	1 学習規律が定着して 2 自尊感情を高める取組を通し、学習意欲や積極性を身に付けさせたい。 3 危険予知能力を身に付けさせたい。 4 教職員一同の協働体制をさらに強化する		

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。</p> <p>1 質の高い学力を付けるための学習指導及び学習環境整備を進める。</p> <p>2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。</p> <p>3 上記1・2を進めるために、中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。</p>		<p>○様々な考えを持つ教職員が「チーム久美小」の意識のもと、協働して取り組もうとする雰囲気をもって教育活動を進めることができ、学校としてのまとまり感を高め、保護者の信頼感を少し高めることができた。</p> <p>○個々の学力課題に対して、組織的な取組を通して、基礎的・基本的な力を全体として伸ばすことができてきた。また、話し合い活動を中心とした言語活動を生かした授業づくりにについても重点研究を通して一定確認することができた。</p> <p>△児童との関係づくりに課題のある学級も複数あり、更に教員の教育観や資質の向上を高める必要がある。</p>		<p>「すべては久美小の子どもの成長のために」</p> <p>【要約】</p> <p>1 若い職場であることを最大限に活用し、適材適所で校務を分掌させ組織的に機能させる。</p> <p>2 肯定的な評価や指導の在り方等教育活動を進める指導観について学び合う。特に教職員自身がコミュニケーションを大切にしていく。</p> <p>3 落ち着いた学習環境であることを最大限活用し、一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、DRTの結果を昨年よりも伸ばす。</p> <p>2 「聞くこと」「話すこと」の力を昨年よりも伸ばす。</p>	<p>1 授業時間内で習熟するための展開の工夫と「パーフェクト計算」等の全校的な取組を進める。</p> <p>2 授業の中で生徒指導の三機能を視点に置き、学年に応じたペアやグループ活動を作り上げるなど学び合いを通じた主体的な学習活動を進める。</p> <p>3 家庭学習の充実を図るために、学園全体の「がんばり週間」と連動させて、内容の改善を図る。</p>	<p>○重点目標である学力の向上はDRTの結果で標準得点の平均点が国語はすべての学年で昨年を上回り、算数は4学年が上回った。個別に見ても学年が上がりが学習内容が難しくなっている中で半数が前年得点より上回り、25%程度が昨年同等の力を発揮できた。</p> <p>○具体的方策の1～3それぞれを連動させて取り組めた。特に学び合いを意識できた。</p> <p>△今後さらに話し合い活動を含めた学び合いのスキルを高めていく。</p>		
生徒指導	<p>1 気持ちよく生活のできるための必要なマナーやルールを考えた行動のできる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業を進める。</p> <p>2 「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。</p>	<p>1 豊かな人間性をはぐくむために、児童会活動を通じた異年齢活動を活発にする。</p> <p>2 生徒指導の三機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との触れ合いを通して深い信頼関係に基づく好ましい人間関係を育成する。</p> <p>3 「法やルールに関する教育」や道徳の教科化に向けた研修と授業を進める。</p> <p>4 日々の子どもの様子を全員教職員で見守り、情報交流をして「いじめ」や「不登校」の芽を見逃さない。</p>	<p>○児童会の異年齢活動や学級づくりにおいて、肯定的評価をもとにした教職員と児童との信頼関係を高めることができた。このことをベースとして落ち着いた中で、意欲的に取り組む力が伸びてきた。</p> <p>○久美浜学園全体として「法やルールに関する教育」を進め、校内研修や全学級での授業を推進してきた。</p> <p>○「いじめ」「不登校」とともに、年間を通じて継続的なものはゼロであり、今後も丁寧な見とりと支援を続けていく。</p>		

本市の小中一貫教育の諸計画

<p>及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>健康（体育）・安全</p>	<p>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取組を通じて我慢強く活動する心を育てる。 2 安全な生活を営むための対応力を育成する。</p>	<p>1 日常生活を当たり前にやりきる子どもを育てるために、基本的な生活習慣、日常的な学校生活、家庭学習等一日のルーティンの確立を目指して粘り強い声かけをする。 2 交通ルールへの順守や不審者への対応、安全な生活を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判断できるようにする。</p>	<p>○マラソン大会での全員出席・全員完走、年間を通じての欠席者ゼロの日の増加、学校生活の中で大きな事故ゼロなど、子どもたちの体力・気力を高めることができた。これも肯定的評価をもとにした学校が楽しいと思える数々の取組によると考えている。 △登下校や学校生活の中での危険に対する意識を常に高めていきたい。</p>
<p>研修（資質向上の取組）</p>	<p>1 重点課題解決につながる校内研修・研修の充実を図る。 2 教職員としての専門性、資質・能力の向上に向けた研鑽を行う。</p>	<p>1 学園研究との整合を図り、重点教科（算数科）を通じた研究に組織的に取り組む。その推進に向けたリーダーの育成を進める。 2 職務や指導等に関する様々な情報を丁寧に知らせ、ともに考えていく。そのために、校長・教頭・教務主任の三者の機能化を図る。</p>	<p>○学園テーマ「話し合い活動の充実」と連動した「学び合い」について、研究授業や校内研修を通じて各学級での実践が高まってきた。特に、子どもたちの中に「話し合い活動」への意識とスキルが積みあがってきている。 △より高みを目指した丁寧な取組を進める中で、教職員の研修内容のニーズが多岐にわたることと相まって、希望にこたえられる十分な校内研修の間確保ができていなかった。</p>	
<p>特色ある学校づくり</p>	<p>1 保幼小中10年間を見通した一貫教育を進め、学校課題の克服を進める。 2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。</p>	<p>1 久美浜学園2年次として、学園経営と学校経営の一体化、連携を更に進める。その結果として、互いの取組により理解するように交流を積極的に進める。 2 教科や総合的な学習等において様々な地域の資源から学ぶ。そのための地域の方々との触れ合いを大切にす。</p>	<p>○久美浜学園2年次として、他校園の先生方との話し合いを通じて、「理解と対話」が確実に進んできた。10年間を通して育成の重要性が意識の中に広がってきている。 ○総合的な学習や生活科・社会科を中心に地域の資源から学び、多くに地域の方とのふれあいを進めることができた。 △他校園の様子をもとに自校の取組を系統的に改善したり高めたりしていくことが今後必要である。</p>	
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>(1) 久美浜学園全体として10年間を見通した方向性と今進めている取組とを常につなげる意識を持つ。 (2) 学力の向上は今後も本校の重点課題であり、その実現に向けて①肯定的な評価をもとにした豊かな学級づくり、②より力を高めるための授業研究と準備、③児童の主体的な学びを支える「学び合い」と基礎基本の徹底を進めていく。 (3) 下校時刻の変更によって生じる放課後の時間を活用し、研究・研修や準備を進めていくことによって、上記(1)(2)を目指して進めていく。</p>			

平成29年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立高龍小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「意欲的な活動を通して自分たちの考えを生かす」</p> <p>1 学校課題の把握、組織的対応での解決</p> <p>2 教育相談の充実と寄り添う指導の実践</p> <p>3 地域連携による学習・生活力の向上</p>		<p>○組織での丁寧な打ち合わせを生かし、児童一人一人が学習・生活面で輝けるような場をつくり、力を発揮できるように取り組めた。</p> <p>△学級経営について差が大きく、全体での申し合わせた実践に差が出てしまい児童の戸惑いがあった。</p>		<p>・学級力を高める…意欲的に児童を活動させ学習・生活にメリハリを付ける。自分たちの意見をどうしたら実現できるのかを話し合わせ、協力できる力を育成する。</p> <p>・教員の活動意欲の向上…成果を認めつつ改善方策を出せる運営会議・企画委員会を行う。課題へ意欲的に取り組む。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)		
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>○学力充実に向けた基礎・基本の学習の徹底</p> <p>○思考場面や意見交流の場面を大事にした授業実践</p> <p>○「話し合う」力の育成</p> <p>○学力テストの誤答分析による課題の明確化、解決に向けた取組の実践</p>	<p>・学習規律を定着させ、基礎・基本力を確かなものにする。</p> <p>・聞く・話す・書く・計算する力の育成に向け、ドリルや宿題などで全校で取り組む。</p> <p>・思考場面を確実に授業に組み込み、一人一人を授業に積極的に参加させ、練習問題まで取り組める指導を行う。</p> <p>・加配教員による丁寧な個人支援を通して、児童の課題を解決に向ける。</p> <p>・めあてを持たせわかる喜びのある授業をめざし、学級経営交流を重ねながら、話し合いの仕方や自分の言葉にして考えるなど、言語力を高め鍛える方法を探る。</p> <p>・誤答整理とともにその傾向をとらえ、本校の課題として全体での指導を行う。</p> <p>・授業につながる家庭学習の内容の実践を行う。</p>	<p>○児童は週1回の朝会での話を、前を見てしっかり聞くことができようになった。教室に戻り内容が聞き取れたかどうか確かめられる担任の工夫も生きた。</p> <p>○久美浜学園の各学年に応じた家庭学習の時間を確認し、その内容を交流した。</p> <p>○話し合う場面を教科時間に入れることにより、児童は自分の意見を持ちたり相手の意見を聞き取ったりして、前向きに「聞く・話す」ということができるようになり、考える時間が増えた。この指導の繰り返しで話し合いが好きになった児童が増えた。</p> <p>△テストを最後まで読み進める力や、何事もテキパキと進めていける力の弱さが克服できなかつた。指導の仕方を工夫し、単位時間にある程度の量をこなす力をさらにつけていくことが今後の課題である。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>○規範意識を醸成する</p> <p>○組織的な素早い対応で課題解決を行う。</p>	<p>・「学校の決まり」遵守に向けた指導を、年間を通して機会を生かして指導する。</p> <p>・生徒指導・特別活動などをリンクさせ、望ましい行動を示し丁寧な継続して指導を行い、児童の心の中に入れていく。</p> <p>・保護者からの悩み相談を丁寧な受け、解決に向け組織的に取り組む。</p>	<p>○生徒指導・特別活動のリンクで、児童に取組の目的を理解させ、行事など積極的に取り組むことができた。</p> <p>○様々な発生した問題事象に分掌としてすぐに会議を持ち方針を決め動くことができたこと、児童の心に丁寧に寄り添ったことでほとんど解決することができた。また保護者対応も同日行ったことで信頼感も高まった。</p> <p>△崩れる学年がないように、児童・保護者の悩み相談などを丁寧な受け。</p>		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					

健康(体 育)・安全	○運動に親しみ、体力の向上を図る ○家庭との連携による規則正しい習慣作り ○安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や、朝・中間休みなどを通して学級・チームなどの単位で、楽しい運動を計画的に実践させる。 ・苦手なことに対して、根気強く一つのことを最後までやり切る心を育てる。 ・早寝・早起きをはじめとする基本的な習慣を、家庭での育成週間に設け保護者と共に確立できるようにする。 ・除去食会議と給食委員会を月に1度持つことで、除去物の徹底、調理員・事務職員とも交流し、給食安全指導を職員全体で見守る態勢をとる。 ・ここにこ力一の下校指導により児童の安全を図る。 ・危険回避能力を身につけるために訓練を行い、もしもの時の動きを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話し合い」を特別活動の中に度々取り入れたことで、高学年の積極性が高まり、運動のなかの苦手なことにも継続的に取り組む姿が見られた。 ○給食委員会を本年度から立ち上げ、教頭を中心に、給食指導、保健、会計、調理を受け持つ職員が月1回集まり、除去食会議と共にコンスタントに行った。全職員に報告することで課題の共有ができ、指導に役立てることができた。 ○家庭学習頑張り週間と合わせ、基本的な生活について点検・見直すことについて家庭との連携が取れた。 △生活習慣確立に向け、難しい家庭もある。習慣確立が健康と結びつき学校生活を快活にすること、学力向上につながることをさらに啓発していく。
特別支援 教育	○学園での連携した取組を進める ○校内委員会の組織的継続的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服させる。 ・入級児童以外の児童の困り感について校内委員会で交流し、よりよい支援の仕方を学び実践に生かす。 ・SSWやSCとの交流を行い、指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内委員会による各学年での困り感のある児童を丁寧にピックアップし、保護者連携も含めて授業・家庭学習について個別の課題の中で話し合うことができた。 △SSW・SCとの連携による指導を継続していくこと。 △一人一人の障害を理解し、クラスでの全体指導と個別指導をつなぎながら両立させていくことが大事である。
開かれた 学校づくり	○地域の魅力を探り、素材の収集と掲示を行い整理する。 ○高龍地域の魅力を体得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を探り歴史や産業、地理的な特徴など学習を通して深く学ばせる。 ・地域の方と触れる機会を作り、高龍地域の良さに十分触れさせ、まとめ・発信させる機会を作る。 ・地域主催の子どものための遊びや学び教室との連携を深め、高龍小児童についての理解を深めてもらう機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の学習や地域の名人探しなど、高龍地域に生きる人たちについて学習を通して学ばせることができた。教えていただいた太鼓の発表も行い、その経験が思い出深い学習となった。 ○学校参加による地区運動会を今年初めて実施できた。 △地域主催の学習会や遊びの教室など、参加する児童が多く、特に低学年の参加率が高いことは良い。児童が地域の人のふれあいを楽しむと共に、地域の方には児童・学校の様子を知っていただきたい。
次年度に 向けた改 善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成をさらに図っていくため、授業の進め方や家庭学習の内容交流を充実させると共に、時間を意識した指導を徹底させる。 ・「話し合う」ことで自分の意見を持つことや理解を深めていけるように、学校全体での方向をそろえていく。 ・児童の実態を丁寧に把握することを常に心がけ、児童とのコミュニケーションを増やすと共に保護者との連携も継続して行う。 ・教員の得意不得意をつかみ、どこでこの人をどう動かすのか、どう伸ばしたいのかを考え人材育成に努める。 		

平成29年度 学校評価 自己評価報告

学校名 (京丹後市立かぶと山小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、 意欲的に学び、やさしい心もち、 根気強く努力する子どもの育成 目指す児童像 (知) 意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子	児童一人一人に基礎・基本 や表現力、学習意欲などの「質 の高い学力」を身に付けさせ る。	○小中一貫教育初年度の取組や市学校給食研究発表会に向 けた取組等を通し、教職員の一致した取組姿勢を築くこと ができた。学級の安定・学校全体の落ち着いた雰囲気につ なげることができた。 ○特別支援に関わる児童への対応を丁寧に行うことができ、 適切な児童理解や就学指導へと広げることができた。 △言語能力の育成につながる、意図的計画的な読書活動等の 取組が十分行うことができなかった。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) (1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力(活用)を 充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
生徒指導	安心と安定のある学級経営 の充実を図る。 いじめを許さないこと、タイ ちろん、見過ごさない、タイ ムリーな指導を行う。	具 体 的 方 策 ・分かる、できるを大切に授業をし、ドリルの時間等で反復 練習して基礎学力の定着を図る。 ・学習規律(チャイム行動、姿勢、聞き方・話し方)の確立 を図る。 ・言語活動(話す、聞く、書く)に充実に向け取り組む。 ・学習内容の習熟のため家庭との連携を深め、家庭学習を充 実させる。 ・学習の基盤となる「読書活動」に積極的に取り組む。 ・生徒指導の三つの機能(自己決定の場、自己存在感、共感 的人間関係)を活かした学級経営の推進により、深い信頼 関係に基づく人間関係を育成する。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。 ・人間関係のトラブルの解消の取組を通して、自己と他者と の折り合いの付け方等について学ばせる。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さががん ばりを認め合える集団づくりにを進める。 ・ルールを守ることを大切に、侵害行為のないようにする。 いじめの早期発見、早期解消に努める。 ・年3回、学級の様子を測るアンケートを実施・分析し、児 童の学級における状況を的確に把握し、いじめや暴力、不 登校の未然防止や改善に役立つ。	成果と課題(自己評価) ○授業研を全学年実施し、事前研事後研の充実により多 くを学び、指導について確認し合うことができた。 ○家庭学習頑張り週間を設定してPTAと連携して取り 組めた。 △学習規律について言語活動を意識した取組と連動させ ながら引き続き取り組む必要がある。 △方法面や内容面について発達段階や学年の実態を考慮 しながらさらに検討し取り組んでいく。 ○日々肯定的な声かけに心がけ、人権旬間や人権月間の 取組と連動しながらお互いのよさを見つめることができ るよう進めることができた。 ○人権の取組と合わせていじめアンケートを3回実施し た。発生したトラブルに対して適切に対応でき、保護 者との連携も深めながら進めることができた。 △事象発生に対する対応は適切にできたが、事象を発生 させない取組(予防的な取組)については提起をして 取り組むことはできなかったが定着するまでには至らなかつ た。 △ユニバーサルデザインとはどうすることなのかを研修 することで深め、学級経営の中に意図的に仕組んでい けるようにしていく。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として			

健康（体 育）・安全	元気で規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができている。児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の体力づくりや年間を通して計画的に実施する。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実に、連続欠席とならないようにする。全員登校の日数が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 ・登下校の安全に対して安全ボランティアの方々や連携した取組を進める。（付添登下校、にこにこカーによる見回り、毎月の登校指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて計画的に朝マラソンに取り組めた。約束事を整理し集中して取り組めた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、体調不良による欠席も少なくなった。欠席児童への対応を電話連絡・家庭訪問と原則的に行うことができた。 ○定期的な登校指導、下校指導に取り組むことができた。登校時の安全に向けて安全ボランティアの方々に連携・協力を得ることができた。 △不登校児童について着実に改善を見ることができたが、全員出席の日数は大変少なかった。
特別支援 教育	配慮を要する児童を中心に全ての児童に対して合理的な配慮に心がけ、適切な支援ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。 ・特別支援教育指導員の効果的、計画的な活用を図る。また状況に応じて柔軟な対応ができることも大切にする。 ・スクールカウンセラーや市教委臨床心理士の効果的な活用を行い、配慮を要する児童への有効なサポートを探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 ・より専門性の高い機関と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校ＳＣ、市の臨床心理士、巡回相談等の連携活用により、児童理解が進み、適切な対応に心がけることができた。 ○児童の支援計画の作成を進めることができ、より計画的に見直しを持った対応に向かうことができた。 △必要に応じた集まりは持てたが、さらに定期的に部会を開催することで児童の実態把握を丁寧に行っていく。
開かれた 学校づくり	学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な授業参観や行事への参観、日常的な家庭訪問や電話等を使っての連絡を実施する。 ・学校や児童の様子等、学校・学級だよりやホームページ等を活用し、積極的に情報発信し理解を得る。 ・年度の初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルを進める。学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用することで、学校外とのつながりを広げ、教育活動を豊かなものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観には毎回多くの参観者を得ることができ、行事への参観・協力もPTAと協力して行うことができた。 ○行事や取組の参観や学校便り学級通信等を通して学校の様子を知ってもらおう機会をつくることができた。 △保護者アンケートの結果を分析、精査し学校改善につなげていくヒントとして有効に活用していく。 △取組に対する学校としてのねらいや考え方が的確に保護者に伝わりきっていないことが感じられた。ねらいや学校としての考えを理解してもらえようように伝え方など工夫していく。
次年度に向け た改善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力の向上に向けた研究活動の活性化 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三つの機能を踏まえた指導の継続 ・特別活動（チーム活動）を中心として児童の豊かな人間関係づくりを目指す取組の推進 ・個に応じた児童への支援のあり方を進めていくための特別支援教育の充実 		